

自己評価報告書

2025年5月1日現在

東京ベルエポック製菓調理専門学校

2025（令和7）年5月1日作成

目 次

1 学校の概要等.....	1	2-6 意思決定システム.....	2 2
学校の概要.....	1	2-7 情報システム.....	2 3
自己点検・自己評価に対する姿勢.....	3	基準3 教育活動.....	2 4
学校関係者評価委員会の構成と意義.....	4	3-8 目標の設定.....	2 5
教育理念.....	5	3-9 教育方法・評価等.....	2 7
学校の目標（今後5年間）.....	6	3-10 成績評価・単位認定等.....	3 0
学校組織の整備.....	7	3-11 資格・免許取得の指導体制.....	3 1
本年度の重点課題.....	1 1	3-12 教員・教員組織.....	3 2
基準1 教育理念・目的・育成人材像.....	1 2	基準4 学修成果.....	3 5
1-1 理念・目的・育成人材像.....	1 3	4-13 就職率.....	3 6
基準2 学校運営.....	1 6	4-14 資格・免許の取得率.....	3 7
2-2 運営方針.....	1 7	4-15 卒業生の社会的評価.....	3 8
2-3 事業計画.....	1 8	基準5 学生支援.....	3 9
2-4 運営組織.....	1 9	5-16 就職等進路.....	4 0
2-5 人事・給与制度.....	2 1	5-17 中途退学への対応.....	4 2
		5-18 学生相談.....	4 3
		5-19 学生生活.....	4 5
		5-20 保護者との連携.....	4 8
		5-21 卒業生・社会人.....	4 9
		基準6 教育環境.....	5 1
		6-22 施設・設備等.....	5 2
		6-23 学外実習、インターンシップ等.....	5 4
		6-24 防災・安全管理.....	5 6

基準 7	学生の募集と受入れ	58
7-25	学生募集活動	59
7-26	入学選考	61
7-27	学納金	63
基準 8	財務	64
8-28	財務基盤	65
8-29	予算・収支計画	67
8-30	監査	68
8-31	財務情報の公開	69
基準 9	法令等の遵守	70
9-32	関係法令、設置基準等の遵守	71
9-33	個人情報保護	73
9-34	学校評価	75
9-35	教育情報の公開	77
基準 10	社会貢献・地域貢献	708
10-36	社会貢献・地域貢献	79
10-37	ボランティア活動	81
4	2024年度重点目標達成についての自己評価	82

学校の概要

1. 学校の設置者

東京ベルエポック製菓調理専門学校は学校法人滋慶学園が設置しています。学校法人滋慶学園は共通の理念のもとに専門学校を全国に運営する滋慶学園グループの構成法人です。

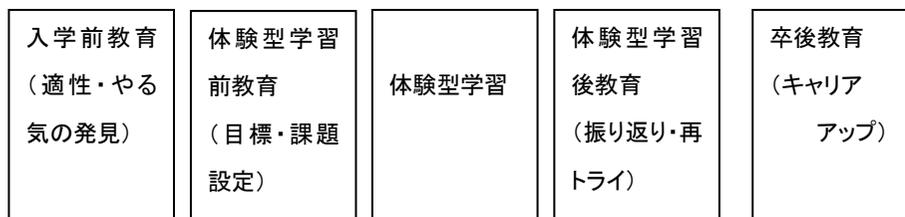
2. 開校の目的

食に関する高い専門技術、知識、情報力、感性、創造力、コミュニケーション力を持った「クオリティオブライフのコーディネーター」を育成します。

その育成を通じて、若者から高齢者まで幅広い世代の人々が心と身体ともに健やかに美しく豊かに生きていける社会に貢献します。

※1

【ベルエポックの『体験しながら学ぶ』教育プログラムのフロー】



問題解決サイクルの習得 (Plan Do Check Action)

学校の概要

3. 校長名、所在地、連絡先

学校長 井上 美津子 所在地 〒134-0083 東京都江戸川区中葛西 4-2-5 連絡先 03-5878-3397

4. 学校の沿革、歴史

- 1978年 本校の設置者である「学校法人滋慶学園」の前身、東京薬学専門学院を、パラメディカルスタッフ養成校として開校
- 1984年 「学校法人滋慶学園」設置。東京医薬専門学校に改組
- 2008年 東京ベルエポック製菓専門学校開校（パティシエ科Ⅰ部・パティシエ科Ⅱ部）
- 2010年 調理師科(昼間・2年制) カフェビジネス科(昼間・1年制) 設置 東京ベルエポック製菓調理専門学校へ校名変更
- 2011年 パティシエ科Ⅰ部→パティシエ科へ学科名変更 パティシエ技術専攻科(夜間・1年制) 設置 付帯事業として製菓衛生師通信課程
- 2015年 スイーツ&パン科(昼間・2年制) 設置
- 2019年 製菓調理師科(昼間・2年制) 設置
- 2020年 カフェビジネス科(昼間・2年制) 変更
- 2023年 パティシエ・調理師Wライセンス科(昼間・3年制) 設置
- 2024年 ホテルサービス&フードビジネス科(昼間・2年制) 設置
- 2025年 フードビジネス科(昼間・2年制) 設置

5. その他の諸活動に関する計画(防災計画)

防災訓練 定期的を実施(避難訓練:毎年4月~6月、安否確認メール返信訓練6月実施)

平成29年度の避難訓練は、平成29年5月16日火曜日に全在校生に実施済み(自衛消防訓練届出済み)

平成30年度の避難訓練は、平成30年6月19日火曜日に全在校生に実施済み(自衛消防訓練届出済み)

令和元年度の避難訓練は、令和元年5月28日火曜日に全在校生に実施済み(自衛消防訓練届出済み)

令和2年度の避難訓練は、令和2年5月26日火曜日に全在校実施予定でしたが、コロナの影響によりオンラインにて実施。

令和3年度の避難訓練は、令和3年10月11日月曜日に全校実施予定でしたが、コロナの影響によりオンラインにて実施

令和4年度の避難訓練は、令和4年6月13日月曜日に全校実施予定でしたが、コロナの影響によりオンラインにて実施

令和5年度の避難訓練は、令和5年4月25日火曜日に全在校生に実施済み(自衛消防訓練届出済み)

令和6年度の避難訓練は、令和6年4月23日火曜日に全在校生に実施済み(自衛消防訓練届出済み)

令和7年度の避難訓練は、令和7年5月19日月曜日に全在校生に実施予定(自衛消防訓練届出済み)

自己点検・自己評価に対する姿勢

2005年3月に発表された文部科学省「専修学校の振興についての協力者会議」報告の中に、専門学校を持つ職業教育力の特徴は、「専門的な教育と職業観を涵養する教育とが一体的かつ効率的になされている」点にあると記載されています。一人ひとりを目指す職業に向けて専門的にも人間的にも一定のゴールに向けて育成する教育、つまり職業人教育※は、専門学校においてのみ可能なことです。

本校は、一人ひとりが目標を達成できるよう、職業人教育の正しい目標設定と目標に到達させる教育システム※の開発に取り組んできました。

実践的な職業人教育を目的とした自らの教育活動、学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について自ら評価、公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図っていきます。

※【職業人教育】を、我々は以下のように定義します。

・職業人教育=専門職業教育+キャリア教育

・専門職業教育とは、特定の職業に就くための専門的知識、技能、態度の教育

・キャリア教育とは、職業人として必要な基礎的な知識・技能・態度の教育

※ **教育システム** 広義の教育システムを「①養成目的と教育目標」(養成目的はその学科の社会的ニーズ、教育目標は卒業時到達目標)、「②目標達成プロセス」(カリキュラム、学年暦、時間割、シラバス)、「③目標達成素材」(教科書、教材、教育技法)、「④目標達成支援人材」(担任、専任講師、非常勤講師)、「⑤評価基準」(透明性、公平性)の5要素で考えています。

学校関係者評価委員会の構成と意義

自己点検・自己評価を行なうにあたり、**学校関係者評価委員会**を組織します。本評価委員会を組織することによって、学校の教育活動はもとより、経営そのものの質の向上、学校運営の改善・強化を推進していきます。

学校関係者評価委員は学生保護者、卒業生、関係業界、高等学校、地域住民、自治体関係部局などの関係者で構成し、自己点検・自己評価の結果に基づいて行なう学校関係者評価の実施とその結果の説明・公表をおこないます。この過程を通じて、学校関係者からの理解と参画を得、また様々な意見や提案をもらう事で、学校の各種質の向上に繋げていきます。

学校関係者評価委員会を活用し、学校の現状について適切に説明責任を果たすとともに、**地域における学校関係者と学校との連携強化**を推進し、日々教職員の教育力・経営力向上に努めていくことを約束いたします。

教育理念

① 実学教育

特定の職種で、即戦力となる知識・技術(テクニカルスキル)を身につけます。

実学教育の要となる教育システムが CPI 教育システム<導入研修(Communication)、専門教育(Professionalism)、実践教育(Independence)、からなり学習動機付けと自立学習をポイントにおいた教育システム>と PCP 教育システム<入学前 (Pre College)、在学中 U(College)、卒業後(post college)からなる入学前～卒業後まで続く専門職業人になるための一貫した教育>です。それを実際の教育フローとして組み立て、「体験型学習」と「実習前後教育」からなる 体験しながら学ぶ教育プログラムを学習の軸にしています。体験したことを文書化し、経験化する、ことが、実学教育の根底にある専門職業人意識の向上に大きく寄与しているのです。

また職務に必要な資格は確実に合格するよう万全の指導を行っています。難関資格の一つである国家資格「製菓衛生師」についても94.4%(2023 年度実績)の高い合格者実績を上げています。

② 人間教育

いかなる職種でも必要なプロとしての身構え、気構え、心構えを持った職業人を養成します。

専門職として仕事をする上で、サービス力、コミュニケーション力が求められています。いかに技術的に優れていても人間性に欠けていたら信頼される職業人にはなれません。学校生活のなかで、いかに人間力を高める教育ができるかが重要になっています。まず、開学以来『今日も笑顔で挨拶を』を標語として掲げ、あいさつを習慣にする指導に取り組んでいます。さらにワンハートサービスなどの、専門職業人としての店舗運営体験プログラムにより、チームマネジメント、セルフマネジメント、問題解決サイクルの学習機会を得ることによって、お客様に対するサービスマインドの向上をはかり、プロ意識を醸成するとともに、気づきの機会を与え、プロとしての「身構え」・「気構え」・「心構え」を身につけることができる環境を整えています。

③ 国際教育

専門用語としてのフランス語、およびイタリア語を身につける、あるいはコミュニケーション言語としての外国語を習得するという事が一義的な目的では無く、より広い視野でモノを捉える国際的な感性を養う事を目的としています。

欧州を中心として発達してきた食や製菓の分野では、プロとして仕事をする上で、海外のお客様や取引先と接する機会はますます増えていきます。その分野で先進的な取り組みをしている欧州の学校や団体などに赴き、学ぶことができる海外研修を実施しています。『自分を愛することの出来ない人に、他人を愛することは出来ない』をモットーに、日本人としてのアイデンティティを確立したうえで、価値観や文化の違いを尊重できるよう導きます。

学校の目標（今後5年間）

■5カ年の目標（2022年度から2026年度までの5年間に、以下の目標を達成します）

1. 産官学協同教育の推進
2. 攻守に強い組織になる（定員充足100%・収支差益率25%）

■目標の意図

1. 変化の激しい食の業界にあっても、基礎・基本の知識や技術の習得は必要不可欠であります。それらの習得に関しては、学内の専門職集団が到達目標や評価基準を明確かつ共有した上で、事に当たる方が高い効果を得られるものになります。しかし、到達目標や評価基準が共有されていない教員がその一翼を担うという事があれば、それは却って教育効果を下げってしまう事に繋がってしまいます。

しかし、創造力や発想力といったような、視野の広がりや柔軟性を養う教育に関しては、画一的では無く様々な経験者から学ぶ事の方が、多くの視点を獲得事が出来るので、将来に向かっては有効だと考えます。そこで、本校では、将来業界で永く活躍する為に必要となる礎を身に付けさせる為の教育のシステム作りにも注力をしているのです。

2. 人口減少社会の到来、それと共に18歳人口の減少が当然のように見込まれています。この人口動向の変化は、18歳人口を主たるマーケットにしている専門学校の営業戦略の苦戦を容易に推察させます。その様な環境の中でも安定的な経営が可能となる、従来とは異なる経営スタイルの構築が喫緊課題となってきます。

■目標を達成するための方策

1. 新しい教育価値を創造していく事になるので、学校全体で取り組む事が何よりも大切になります。その為の体制作りに注力していきます
2. 顧客の価値に応じた商品開発を、スピード感を持って推進すると共に、その商品の魅力を、スピード感を持って訴求していきます。

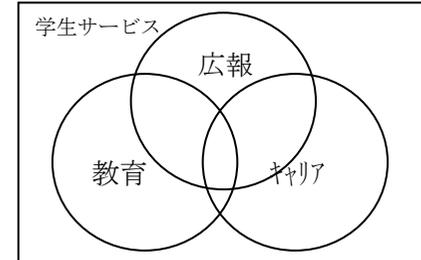
また、質を落とさない「業務改革」により、持続的に収益を上げることのできる組織作りを目指します。

学校組織の整備

① サッカー型組織

私たちの学校は大きく4部門(教務、広報、キャリア、学生サービス)で構成されています。それぞれの部門で働く教職員の職務分掌は、固定しているものと、変化するものがあります。

機に応じて役割を変化させること、通常の役割を越えて働くことをよとする、サッカーのような組織を理想としています



② 職務分掌

理事会	グループ総長	滋慶学園グループ全体の経営方針、人事の決定を行なう。
	法人理事長	滋慶学園グループの経営方針に基づき、法人の学校方針実現に向けて助言・諸活動を行なう。
	常務理事	滋慶学園グループの経営方針に基づき、グループ校の経営方針の決定を行なう。
	学校長	建学の理念を体現し、教育、指導運営において、周知徹底に寄与する。
	副学校長	学校長を補佐・代行し、学校業務の質と実績を高めるために助言・諸活動を行なう。
	運営本部長	常務理事を補佐し、グループ校の経営方針を遂行するとともに、各学校責任者の指導、助言を行なう。
教職員	事務局長	学校責任者として事業計画を作成し、学校経営にかかわる全ての意志決定の責任を負う。
	教務部長	学校経営全ての業務において、事務局長を補佐し、事業計画実現に向け諸活動を行なう。
	学部長・学科長	学科の事業計画の作成、運営にかかわる全ての意志決定の責任を負う。
	FDC	Faculty Development Coordinator 学校毎に教育力【1. 計画:カリキュラム 2. 運営:授業 3. 評価:試験フィードバック】向上のための教育システム改革項目について分析し、改革案を作り、改革実施を評価し、修正提言する。
	広報センター長	学校広報目標について、事務局長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その実現に責任を負う。
	キャリアセンター長	学校就職目標について、事務局長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その実現に責任を負う。
	学生サービスセンター長	学校予算の管理、教職員、及び学生の環境整備について、事務局長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その実現に責任を負う。
	スタッフ職	個別業務の執行について、上長の監督のもと、全般的な意思決定を行なう。事業計画、教育目標達成に向けた業務、プロジェクトや委員会活動など部署横断的な活動に対し、積極的にその諸活動を行なう。

学校組織の整備

③学習する組織

私たちの学校は、学内において教職員が組織的に学習に取り組み、スタッフ一人ひとりが成長できる組織を目指しています。そのために、学習する組織のあり方と、学校経営の方法の確立に取り組んでいます。

1. 知の蓄積と伝承を促す組織的学習システムの構築

学習グループの推奨 学校の基本単位は教務部と事務部で、それぞれ学科、センターがあります。5名内外のメンバーで構成される、そのチームを学習グループとして位置づけます。また、クロスファンクショナルなチーム(プロジェクトや委員会など)も同様に学習グループとして位置づけ、自問自答と対話と探求による学習を行ないます。

2. 自問自答と対話と探求による意思決定システム

自問自答 会議・研修は事前準備され、目的、議題、資料などは事前に参加者に配付します。参加者は事前に自分なりの考えと、なぜ自分はそう考えるのかを問い詰めてから参加します。主催者は、あらゆる個人のあらゆる問い、疑問、質問を尊重し、傾聴する場づくりに努めます。大切なのは自答ではなく、自問です。考え、調べ、学ぼうとする個の力を育成するのがねらいです。

対話(ダイアログ) 主催者はすべての参加者が役職や立場などに関わりなく平等に議論する場をつくるよう努めなければなりません。主催者と参加者は、対話の結果たどり着いた合意が、単なる妥協や組織内政治の結果ではないか、本質的な問いとなっているか、組織の原則・基本理念と整合しているか、をよく検証する必要があります。

探求(根拠を問う)の推奨 問いや主張が対立し、平行線をたどるような場合、相互の主張や考えの背後にある事実やデータについて議論するよう、心がけなければなりません。それぞれが主張する推論の根拠を問い、誰が正しいのか?ではなく、なにがより筋の良い問いであり、仮定であるかを大切にします。

会議のシステム

グループ会議・研修

【グループ戦略会議】 年4回

【分野戦略会議】 月1回

学内会議

【全体会議】 月1回 全教職員

【運営会議】 月1回 運営本部長、局長、部長、学科長、センター長、FDC

【すべコン委員会】 月1回 局長、部長、学部長、センター長、指名者

【学科、センター会議】 月2回 学科、センタースタッフ

【TBM (Tool Box Meeting)】 朝礼、終礼、他適宜

学校組織の整備

④意思決定システム(コミュニケーション一覧)

方法	目的	実施回数	主催者	対象者
運営協議会	滋慶学園グループ運営の最高決議機関	7回／年	総長	常務理事・指名者
グループ戦略会議	グループ最高議決機関。戦略及びその実行計画を決定する。戦略実施の中間チェックを行なう。参加メンバーが戦略作りの要諦を学ぶ場である。	12回／年	常務理事	運営本部長・指名者
分野戦略会議	グループの戦略会議を受け、各分野ごとの。戦略実施の中間チェックを行なう。参加メンバーが戦略作りの要諦を学ぶ場である。	1回／月	運営本部長	各校事務局長
運営会議	グループ戦略会議に基づく学校毎の事業計画作成、実施チェックを行なう。学科長クラスの目標達成力及び問題解決力を育成強化する。	1回／月	事務局長	部署リーダー
全体会議	建学の理念、4つの信頼を基に第6期5ヶ年計画と2017年度事業計画の諸方針に従った日常業務の遂行方法を学ぶ。学科部署を越えた共通の課題から、特に重要な問題について認識を共通にする。	1回／月	事務局長	全教職員
部署別会議	各部署の年度目標達成に向けて発生する様々な問題を協議、解決する。	2回／月	部署リーダー	全教職員
プロジェクト	事業計画達成に向けて、部署を横断的に協議する。	適宜	リーダー	プロジェクトメンバー
ミーティング				
O・N・O ※	相互の情報交換や特定の問題、状況、関心事について時間をとって話をすることにより、スタッフ、トレーニーへのノウハウやスキルを伝え、問題解決、発見につなげる。	適宜	マネージャー・トレーナー	スタッフ/トレーニー
講師 O・N・O	教育システム改革に基づく授業運営、教育方針の徹底をはかり、機会や問題発見の場とする。	1回／年	事務局長・教務部長	講師
TBM(ツールボックスミーティング)	問題解決の場として適宜実施し、業務の改善をはかる。	適宜	教職員	関係教職員
朝礼・終礼	お互いの問題発見の報告、対策の周知の場とする	毎日	事務局長	全教職員
E・メール				
議題・議事録	議題配信:事前準備を促し、会議への参加意欲を高める。議事録配信:決定事項の内容確認や伝達に活用する	適宜	議長・書記	参加メンバー全員

※ O・N・O ONE・ON・ONE の略 1対1の面談

学校組織の整備

⑤滋慶教育科学研究所

滋慶教育科学研究所(略称 JESC、以下 JESC という)は、滋慶学園グループ傘下各校の教育の質的向上を目指す一般財団法人です。本校が参加する JESC の主な研究、研修活動には以下のものがあります。

滋慶教育科学学会	滋慶学園グループの各校の教育実務・技法等の研究成果の発表、社会貢献に資するための職員の研鑽と人材育成の場として毎年開催しています。
JESC教育部会 食文化教育分科会	食文化に関連する学科、コースを設置している学校で部会活動を行なっています。活動内容は、情報収集、テキストの開発、全国合同コンテストなどです。
FD ミクロ・ミドル・マクロ レベル研修	教務スタッフの各役割に於いて必要な教育力～教務マネジメント力の向上を目的とした研修。
教職員カウンセラー研修	すべての担任と、直接学生と接点を持つ全教職員が2年間にわたってカウンセリング研修を受けることを義務付けています。カウンセリング研修で得た知識技術を活かし、学生カウンセリングを行なっています。
OJT トレーナー研修	新入職者に対してトレーナーとしての心構え及びトレーナーに求められるスキルを学びます
新入職者研修	学園に入職して仕事を始めるにあたって、学園の理念や原理原則を理解し、自分らしさを活かして仕事を楽しめるよう研修を行なっています。

⑥学内研修体制

私たちの学校は、学内において学習に取り組み、スタッフ一人ひとりが成長できる組織を目指しています。そのために、学習する組織のあり方と、学校経営の方法の確立に取り組んでいます。

スタート研修	学園グループ、学校の 5 ヶ年の計画を理解したうえで、単年度の事業計画に落とし込み、各部署、個人の単位まで目的、目標、行動計画を作成します。
教務研修	担任のクラス運営、学生支援力を高めるための研修を行なっています。
広報(入学前教育)研修	広報は入学前教育の考え方をもとに、学生募集や受験生のサポートなど、一人ひとりの適性に合わせた進路指導ができるよう研修しています。

本年度の重点課題

■産学連携教育の推進

- ① 「業界コラボレーション」のフロー教育を完成させる
- ② ホテル・ウェディングへ就職できる学校としてのブランド力の向上をはかる。

■攻守に強い組織になる

- ① 定員充足率：100%
⇒顧客の価値に応じた商品開発をスピード感を持って推進すると共に、その商品の魅力をスピード感を持って訴求していく。
- ③ 収支差益率：25%
⇒質を落とさない「業務改革」により、持続的に収益を上げることのできる組織を目指す。

■食の分野での新しい価値の創造

- ①顧客マーケットの拡大
- ②新しい教育プログラムの創出

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の理念・目的・育成人材像は、学校経営、教育活動の核となるものとして重要視しているの で、具体的に明文化されている。また、事業計画、 教育指導要領や学生便覧、HP（情報公開）等を通じ て、教職員・学生・外部関係者に対しても公表し、 周知されるよう図っている。</p> <p>日々、目まぐるしく変化して行く現代の社会環境に おいて、入学生の多様化、業界の人材養成ニーズに 応えるべく育成人材像の見直しを図りながら、変化 に対応し得る人材の育成ができるよう取り組みを し、開校の目的、養成目的、学校・教育目標の達成 の実現を目指す。</p> <p>質の高い教育を提供する為の「入学者＝定員」を恒 常化できるかが課題であり、そのために顧客の価値 に合わせた教育の創造が必要不可欠となる。</p>	<p>「産学連携教育」を教育の核に据え、と同時に「ま た受けたい授業」の提供により、教育の充実を図っ ていきたい。</p> <p>加えて、公官庁も巻き込んだ連携の充実を図ってい く。</p> <p>また産学連携教育の充実には、インプット型の連携 とアウトプット型の連携の両輪で整えていく必要 性を感じている。</p>	<p>企業・業界と連携した「現場実習型人材育成プ ログラム」を構築する。現場に即した実践的な 授業を実施する。</p> <p>より実践的で現場力向上が期待できる長期イ ンターンの導入を開始（2024 年度パティシ エ・調理師Wライセンス科にて実施）。これに よりリゾート地における人材不足の解消につ ながる産学連携プログラムを構築する事が出 来るようになってきた。</p> <p>また、オンラインでの授業形態も柔軟に取り入 れられ、新しい学び方（授業形態）を得ること ができているのと同時に、業界との接続方法も オンラインが中心になってきており、より身近 に、スピード感を持って業界のニーズに応える ことが出来ている。</p>

最終更新日付

2025 年 5 月 1 日

記載責任者

阿部 憲一朗

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<input type="checkbox"/> 理念に沿った目的・育成人材像になっているか <input type="checkbox"/> 理念等は文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 理念等において専門分野の特性は明確になっているか <input type="checkbox"/> 理念等に応じた課程(学科)を設置しているか <input type="checkbox"/> 理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか <input type="checkbox"/> 理念等を学生・保護者・関連業界等に周知しているか <input type="checkbox"/> 理念等の浸透度を確認しているか <input type="checkbox"/> 理念等を社会の要請に的確に対応させるため、適宜見直しを行っているか	3	<input type="checkbox"/> 学園の理念に沿った目標を掲げ取り組んでいる <input type="checkbox"/> 理念等は文書化し明確に定めている。 <input type="checkbox"/> 食文化分野の養成校として特性が表れている。 <input type="checkbox"/> 実学と人間教育、国際性を身につける教育体系を組んでいる。 <input type="checkbox"/> 養成目的、教育目標、シラバスが計画に基づいて実施されている。 <input type="checkbox"/> 学生・保護者への浸透はある程度はされている。 <input type="checkbox"/> 学生に対する浸透度については、年度初めのガイダンスにて確認を行っている。 <input type="checkbox"/> 環境の変化に則り、毎年の見直しを行なっている。	個人や対象による浸透度にバラつきがある。今後に向けては、「本校における産学協同教育とは」を具体的にすると共に、いかに実行に移していくか。 加えて講師も含め、いかに共有を図るかが課題となる。	産官学協同教育を核とした教育プログラムの作成と実績作り。 フロー教育に取り入れ、体系化を図る。	当該年度事業計画
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	<input type="checkbox"/> 課程(学科)毎に、関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育課程・授業計画(シラバス)等の策定において、関連業界等からの協力を得ているか	3	<input type="checkbox"/> 養成目的によって明確にされている。 <input type="checkbox"/> 教育課程編成委員会の提言、業界から招聘している講師や業界訪問により教育課程・授業計画(シラバス)等策定時に向けて情報収集している。	多様な学生を、関連業界のニーズに適應できる社会人基礎力の高い人材(永く続けられるか)に育成できるかが課題である。	業界ニーズと入学者とのギャップを補うキャリア教育の更なる充実	養成目的教育目標

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
1-1-2 続き	<input type="checkbox"/> 専任・兼任(非常勤)にかかわらず、教員採用において、関連業界等から協力を得ているか <input type="checkbox"/> 学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか		<input type="checkbox"/> 一般公募とは別に関係業界からの推薦窓口を公にしている。 <input type="checkbox"/> 実習の前後教育を含め、業界からの協力を得て実施している。 <input type="checkbox"/> 業界や専門職講師からのアドバイスを講師面談・講師会議等で集約している。	学生、保護者に無理のないようコスト意識を常に持ち、低価格・高品質での教材提供を心がけること。	スペシャリスト（専門職）の教育スキル向上を恒常的に図るシステムをスペシャリスト共々に図るか。	研修報告書
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 理念等の達成に向け、特色ある教育活動に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 特色ある職業実践教育に取り組んでいるか	3	<input type="checkbox"/> キャリア教育(問題解決技法)の場としてワンハートサービス・コンテストの機会をフローで学年暦に導入している。 <input type="checkbox"/> 産学協同教育にも積極的に取り組んでいる。	キャリア教育(問題解決技法)との連動した教授法の構築ならびに教授力の向上が課題である。	学生の習熟度を段階的に高めるスモールステップのプログラム(シラバス)の再構築。	ポートフォリオ
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	<input type="checkbox"/> 中期的(3~5年程度)な視点で、学校の将来構想を定めているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を教職員に周知しているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか	3	<input type="checkbox"/> 中期的(3~5年程度)な視点として事業計画の共有をしている。 <input type="checkbox"/> 学校・部署レベルにおいても事業計画を策定し組織内での周知がなされている。 <input type="checkbox"/> 将来構想を学生・保護者・関連業界が知る機会は少ない。	入学式や学校便り等での周知は試みているが、全ての保護者、業界の方々に周知されるには至っていないと思われる。	紙媒体(パンフレット・保護者、業界媒体)だけではなく、WEB上にも本校の目指す事業構想を、セキュリティを確保した上で公開する必要がある。	事業計画

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校経営にあたり最も大切にしているものは、ミッションと理念である。これを基に、作成している事業計画があるからこそ、健全な学校経営が出来ていると考える。</p> <p>事業計画で考える中期計画は、学校の未来を表現したものであり、そこで考えられた組織目的、運営方針に基づき、実現に向けての目標設定を行い、目標達成の為の実行方針、実行計画の遂行が学校の成長に寄与してきた。</p> <p>また、理念、経営者の言葉、学校の考え方や組織文化を、さまざまなシーンで共通言語化し、組織内に浸透させるとともに、新たに組織に入ってくる人や外部にも分かり易く示していく事が学校の適切な認知に繋がると考えている。</p>	<p>学校法人滋慶学園は「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことをミッション（使命）にしている。</p> <p>建学の理念①実学教育 ②人間教育 ③国際教育の実践を通じて、4つの信頼（①学生・保護者からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③業界からの信頼 ④地域からの信頼）を得られるよう学校運営を行っている。</p> <p>建学の理念に基づいて、東京ベルエポック製菓調理専門学校は、顧客の多様な個性に対応できる食と健康の総合コーディネーターを養成することを開校の目的に掲げている。また入学前から卒業後に至るまでのフロー教育プログラムを通じて、『やる気』と『働く意欲』を失わず食分野で永く活躍する人材を養成する事を核とした教育作りを目指している。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法人の方針＝学校事業計画＝部署ごとの事業計画と組織運営の計画に関しては整備できている。</p> <p>意思決定に関しては、事業計画・組織図に意思決定及び決裁者を明確にしている。また、案件ごとに意思決定までのプロセス「なぜ」・「何の為に」を議事録に残している。</p> <p>会議参加者以外への浸透を図る為に、部署責任者が主催の部署毎会議が効果的に機能している。この事より、ミドル層の成長を伺うことが出来る。つまり人材育成が組織の機能として行われているという事になるので、特筆に値すると考えている。</p> <p>超過勤務に関しては引き続き課題が残るが、特定の人間に限定されている。業務の割り振りや残業に関するルールの強化など、残業削減に向けた取組を実施する。</p>	<p>学科制に組織の改編を行ない、個からチームでのアプローチを高め、より成果があげられるようにしていく。</p> <p>各学科リーダーのチームマネジメント力を強化すべく、各会議を研修の場として、トレーニングを行っていく。</p> <p>また、各層における権限移譲度を高め、即断即決が出来るようにしていく事で、現場が強い組織へとしていく。</p> <p>超過勤務に関しては、引き続き働き方改革を推進し、「楽しく健康で、ほこりをもって」仕事ができるよう個々で目標設定を行い、個々が責任と意識を持って臨んでいくよう、体制を整えていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学部制を導入し、個が有機的に機能しやすくしていると同時に情報が流れるコミュニケーションシステムの構築に努めている。 ・FD活動の積極的な推進 ・教職員研修の組織的な実施 ・技術練習などの自己研鑽の推進 ・終礼にての残業申請制度、及び月1回のNO残業DAYの実施

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 運営方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針を教職員等に周知しているか <input type="checkbox"/> 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか	3	<input type="checkbox"/> 事業計画に基づき、運営方針を文書化し「理念」「目標」「計画」について明確にし、周知、浸透の機会を常に設けている。	全ての教職員が事業計画を理解し組織の課題に対して一丸になり取り組めるかが課題である。	会議・研修の場を通じて、継続して理念の共有をはかり、意識の統一を図っていく。	事業計画

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。</p> <p>明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間を通じ注力していく。</p>	<p>事業計画の構成</p> <ol style="list-style-type: none"> ①組織目的（普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的） ②運営方針（中期的に組織として目指していく方針） ③実行方針（中期的な組織の運営方針を実現するための単年度の方針） ④定量目標（受験者、教育成果（中途退学防止、欠席率、資格取得数、就職率、専門就職率等） ⑤定性目標（人材育成や組織あり方等定性的な目標についての単年度目標） ⑥実行計画（その方針を実現するための詳細な計画） ⑦組織図（単年度） ⑧職務分掌 ⑨部署ごとの計画及びスケジュール ⑩附帯事業計画 ⑪職員の業績評価システム ⑫意思決定システム ⑬収支予算書（5ヵ年計画）

最終更新日付

2025年5月1日

記載責任者

阿部 憲一朗

2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<input type="checkbox"/> 中期計画（3～5年程度）を定めているか <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画を定めているか <input type="checkbox"/> 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期、内容を明確にしているか	3	<input type="checkbox"/> 中期計画（3～5年程度）を定め周知のための勉強会も設定している。 <input type="checkbox"/> 中期計画からブレイクダウンした単年度計画も明確に定められている。 <input type="checkbox"/> 事業計画に予算、事業目標等を数値で明示している。 <input type="checkbox"/> 事業計画の執行体制においては、「組織役割表」を設定し明確化している。 <input type="checkbox"/> 執行・進捗管理状況は予算においては「毎月」、事業計画においては「半年」を目安に見直しの機会を設けている。	事業計画の重点課題が戦略的且つ計画的に遂行できているか。また遂行に必要なコミュニケーションが図られているか。	定例の会議の中で、事業計画の進捗をチェックし、学校の価値の向上を優先する組織文化を醸成する。	事業計画

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
作成した事業計画の理解は、各種の研修（教職員・講師）、会議（運営会議・学科・部署別会議、全体会等）を通じて行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りを行っている。 このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場や顧客ニーズに対応した事業計画の作成、あるいは運営方針を示せるよう、これからも作成に努めていく。	事業計画の構成については前頁参照

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<input type="checkbox"/> 理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催しているか <input type="checkbox"/> 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか <input type="checkbox"/> 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	3	<input type="checkbox"/> 理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催している。 <input type="checkbox"/> 理事会、評議員会共に必要な審議と議事録の作成を行っている。 <input type="checkbox"/> 寄附行為は、必要に応じて改定の機会を設けている。			理事会、評議員会議事録
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校運営に必要な事務及び教務組織を整備しているか <input type="checkbox"/> 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか <input type="checkbox"/> 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の議事録（記録）は、開催毎に作成しているか <input type="checkbox"/> 組織運営のための規則・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	2	<input type="checkbox"/> 学校運営に必要な組織体系を整備し、役割の明確化もなされている。 <input type="checkbox"/> 毎年の事業計画に基づいた新年度組織図が作成され、教職員に開示されている。 <input type="checkbox"/> 各部署の組織役割表をもとに明確化されている。 <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の職務分掌を規定し、意思決定のプロセスを明確化している。 <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の議事録（記録）は、必要に応じて作成・保存している。 <input type="checkbox"/> 組織運営のための規則・規程等を整備している <input type="checkbox"/> 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正されている。	役割遂行にあたり、超過勤務が課題となる。また、意思決定プロセスが周知されずに「何故、何のために」が伝わらず行動に温度差が生ずることがある。	決定事項の周知は一斉かつ、結果のみならず目的（何故・何のために）や達成に向けてのプロセスも含め、丁寧に伝えていく。 状況によっては、複数回の説明を行い、全体理解を深めていく。 超過勤務については、残業の申請制度、及びNO残業DAYの設定を行い時間外労働の減少に努めている。	組織図 組織役割表

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-2 続き	□学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか		部署別研修や職階ごとの研修の機会を設け、資質の向上に努めている。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
意思決定に関しては、重要事項の優先順位が明確である。 年度ごとに業務の優先順位を明確にし、意欲的に取り組む組織風土が根付いている。ただし年を追う毎に積み重ねによる業務量が増加し、各スタッフの業務バランスの調整が課題である。	部署内の連携については、部署別会議やTBMなど定例化されているが、部署や役割を超えたコミュニケーションの機会設定については、日常業務とのバランスを加味しながら改善・強化していく。

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<input type="checkbox"/> 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか <input type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	3	<input type="checkbox"/> 採用基準・採用手続きいずれも明確に規定されている。 <input type="checkbox"/> 能力ある人材の確保については、本陣本部が主体となり継続して行っている。 <input type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、労働条件通知書をもって明確化している。 <input type="checkbox"/> 昇進・昇給の基準を規程等で明確化している。 <input type="checkbox"/> 評価システムを規定し、数値目標での評価と情意効果の両面で評価している。	人事制度の見直しにより個人の目標がより明確になっている。	目標に対する進捗を常に確認する事が重要となる 今後、学園としても人事評価制度の見直しが行われる予定である。	評価システム

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や採用試験を実施している。</p> <p>また、その後の教職員の育成には、OJT 制度をはじめ職階に応じた研修を整備している。そして、全教職員は目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や賃金決定が行われている。</p>	<p>数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務（例えば、入学式・卒業式担当、行事担当など）も過程を評価できるよう情意考課を導入している。</p> <p>目標は常に、健全な学校・学科運営を実現していけるかという視点で設定し、学校・学科の成果と教職員の成長が結びつくようにしている。と同時に評価もマネージャーで構成される検討会議にて、公平公正に行なっている。また、職員の職場に関するアンケートも実施。理念や目標の理解度、職場満足度、各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けての、職場環境の改善にも着手している。</p>

最終更新日付

2025年5月1日

記載責任者

阿部 憲一朗

2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<input type="checkbox"/> 教務・財務等の事務処理において、意思決定システムを整備しているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか	3	<input type="checkbox"/> 教務においては学校長が主催する進級・卒業判定会議にて意思決定する。 <input type="checkbox"/> 財務等の事務処理においては事務局長の決済のもと意思決定がなされている。 <input type="checkbox"/> 組織図と職務分掌において規定されている。	事業計画において意思決定の権限が明確になっているが情報共有のスピード感が課題	日常的に TBM やサイボウズ, Teams を活用して日々の共有をする習慣をつけるとともに、直接コミュニケーションの重要度を上げる。	進級・卒業判定会議議事録 職務分掌

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>意思決定に関しては、事業計画・組織図に意思決定ならびに決裁者を明確にしている。</p> <p>また、案件ごとに意思決定までのプロセスはもとより、「何の為に」を議事録に残す事で、手段の目的化を防ぐと共に、現場力を発揮しやすいように努めている。</p> <p>更には、会議ごとに決定事項の進捗をチェックすると共に、都度の議事録を確認し、遅滞や漏れが出る事で発生する機会損失を防止したり、早期に問題発見する事で、解決に努めている。</p>	<p>会議の構成は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法人理事会・評議員会：最高決議機関 2. 戦略会議：運営方針の起案会議 3. 法人運営会議：運営方針の問題を発見・対策立て会議 4. 学校運営会議：学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議 5. 学校全体会議：決定事項の周知 6. 学科会議・部署会議：部署の問題解決会議・情報共有 7. グループ各委員会会議（広報委員会・総務人事委員会・就職委員会・国家試験対策委員会・広告倫理委員会・個人情報保護委員会・学科別教育研究委員会・災害対策委員会・カウンセリング委員会・オリエンテーション委員会） 8. 様々なプロジェクトの会議

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	<input type="checkbox"/> 学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか <input type="checkbox"/> これらシステムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか <input type="checkbox"/> 学生指導において、適切に（学生情報管理）システムを活用しているか <input type="checkbox"/> データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか <input type="checkbox"/> システムのメンテナンス及びセキュリティ管理を適切に行っているか	3	<input type="checkbox"/> 学生に関する情報管理システムは業務システムにて本部とも連動し、セキュリティシステム及びデータバックアップシステムとも整備されている。 <input type="checkbox"/> 学生個々の重要な個人情報に伴うので、専用プリンターの設定やアクセス権限に制限を設けているが、要求に応じて出力できる体制がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算管理あるいは精算等に関わるシステムと業務システム（AS400）との連動が重要である。 情報セキュリティポリシーの遵守や個人情報の管理体制などを再度見直す必要がある。	業務システム、精算管理システム、勤怠システム、人事データバンク等の情報システムについて情報セキュリティポリシーの遵守のための研修の実施を行う。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
専門学校基幹業務システムにより管理している。 管理項目は以下の通り。 ①学籍簿管理 ②時間割管理 ③成績・出席管理 ④学費管理 ⑤入学希望者及び入学者管理 ⑥各種証明書管理 ⑦求人企業管理 ⑧就職管理 ⑨卒業生管理 ⑩学校会計システム ⑪人事・給与システム ⑫ファームバンクシステム ⑬研修旅行管理システム ⑭寮管理システム ⑮健康管理システム となっている。	特に、学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理については全て一元化された運営を行っており、学生情報にブレがないようにシステム構築を行っている。システム構築は、グループ内の関連企業である為、学校の実情を理解した上でのシステムとなっている。

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>産学連携を核とした教育コンセプトを中核に据え、実教育プログラムに業界講師の招聘、企業連携課題の取り組みを推進し、実績を積み上げている。学内で総連携企業数は 25 社を超え前年度の水準を維持した。</p> <p>これらの取り組みを教育の質の向上に繋げ体系化することが今後の課題である。</p>	<p>産学連携を「特別プログラム」から通常授業に落とし込み、年間計画を策定し、教育（授業）と就職説明会を連結させ、学生にとって実学と業界研究の 2 軸の価値を創出する。</p>	<p>「また受きたい授業」＝産学連携をキーワードにカリキュラムを構成する。</p> <p>ベルエポックの産学連携教育を通じて、高いコミュニケーション力と確実な技術力を持った人材を養成し、長きにわたり継続的に活躍できる人材を輩出する。</p>

最終更新日付

2025 年 5 月 1 日

記載責任者

阿部 憲一朗

3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 職業教育に関する方針を定めているか	3	<input type="checkbox"/> 教育指導要領での文書化 <input type="checkbox"/> CPI 教育システム・PCP 教育システム・MMP プログラムの教育プログラムの実践			教育指導要領
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<input type="checkbox"/> 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか <input type="checkbox"/> 教育到達レベルは、理念等に適合しているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか	3	<input type="checkbox"/> 学期ごとに到達目標を設定 <input type="checkbox"/> 教育目標に照らし合わせて設定している <input type="checkbox"/> CPI教育システムにて目標設定しフローで動機付けしている <input type="checkbox"/> 資格取得のための特別講座を実施と補習の実践	学科、学年、学期ごとに到達目標を設定している。		教育指導要領

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>毎年、入口（受験生）と出口（業界）のニーズ等の市場調査を基に学科（コース）の課題を明確にして課題を抽出している。</p> <p>また、業界代表並びに業界団体の方にて構成する「教育課程編成委員会」を定期開催し意見交換を行っている。</p> <p>それによって養成目的（学生の将来の姿）の見直しを毎年実施している。</p> <p>そして、養成目的の見直しを基に卒業時や各年次の到達イメージ（教育目標）やその為の教育カリキュラムまで一貫した修正を行っている。</p>	<p>カリキュラムの編成に関しては、3つの教育システム（PCP 教育システム、CPI 教育システム、MMP プログラム）によって、体系的に組み立てられている。</p> <p>上記より、学科のスタート（入学前）からゴール（卒業後、就職）までに必要な学習内容と学習期間、及び学習ステップを勘案したカリキュラム体系を構築できていると考える。</p> <p>1. PCP 教育システム （P…Pre College、C…College、P…Post College）（※）</p> <p>入学前から卒業後までの一貫した人材育成のためのシステム。入学前に自分の夢や将来の仕事を見だし（自己発見）、在学中にその夢の実現に向けて変身していき（自己変革）、そして卒業後あこがれの職場でプロとしての自分を完成させていく（自己実現）。そうしたフローでのプロセス全体を総じて呼ぶ。</p> <p>2. CPI 教育システム</p> <p>CPI 教育システムは、導入教育（Communication）→専門教育（Professionalism）→実践教育（Independence）というプロセスで学習する「体験学習」に重点をおいた教育システムです。</p> <p>3. MMP プログラム （M…Motivation、M…Mission、P…Professional）</p> <p>自立したプロの職業人として業界で活躍するために必要な能力である「モチベーション（動機づけ）」「ミッション（使命感）」「プロフェッショナル（職業的な知恵）」という3つの能力を修得する教育プログラムで構成されている。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、必修科目、選択科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 修了に係る授業時数、単位数を明示しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で、授業科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか	3	<input type="checkbox"/> 教育課程編成する際に学科長がカリキュラムプレゼンを学校責任者に実施している。 <input type="checkbox"/> カリキュラムプレゼン議事録に明記している。 <input type="checkbox"/> カリキュラムフォームに沿って配分している <input type="checkbox"/> 法定科目・一般科目・選択科目を規定の時間数の中で配分している <input type="checkbox"/> カリキュラムにて明記している <input type="checkbox"/> 目標に沿ってシラバス・コマシラバスを作成し授業を運営している <input type="checkbox"/> コンプライアンスの範囲内で適切に選択している <input type="checkbox"/> 授業内容に適切にグループワークなどを取り入れて指導方法に変化を持たせている <input type="checkbox"/> MMP プログラムの実践とキャリア教育の視点で科目ごとに配分している	留学生や社会人経験者など、学生が多様化しており、特色を持った学生も多くなり、要因が複合的で、対応が困難な場面も多い。 学生だけでなく、保護者対応が必要な場面も多くなっている。	多様化する学生への対応として、研修などを通じて担任力・専任の教授力を向上させる。 サポート校出身者を中心とした低学力者・メンタル学生についてはSSC（学生サポートセンター）との連携など、チームで対応する。 留学生は留学生支援対応者を中心に、留学生の在学中のフォロープログラム（留学生サロンの充実）と入学前の前教育の充実をより強固にする。	カリキュラム 教育指導要領 シラバス コマシラバス 授業報告書

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-1 続き	<input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等工夫しているか <input type="checkbox"/> 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか <input type="checkbox"/> 授業科目について、授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成している <input type="checkbox"/> 教育課程は定期的に見直し改定を行っているか	3	<input type="checkbox"/> ポートフォリオを活用し職業実践教育を実践している <input type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> シラバス・コマシラバスともに作成している 年度更新ごとに見直し改定を行っている	毎年、教育課程の見直しを行っておりカリキュラムが年度により異なる結果となっている。それに起因し、実運営が複雑化している。	カリキュラム策定段階で顧客に支持されつつ弾力的運用が可能な教育課程を開発する。	ポートフォリオ シラバス コマシラバス
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	3	<input type="checkbox"/> カリキュラム作成段階において、業界・在校生・卒業生・競合校の変化をキャッチしカリキュラムの改定に反映している。 <input type="checkbox"/> 離職状況の調査を通して離職の理由からブラッシュアップのポイントを抽出している。 <input type="checkbox"/> 教育成果の見えるコンテストなどに審査員を外部から招聘し、評価を受けている。	入学生の思考と業界が求める人材像のギャップが年々大きくなっている。	卒業後3年以内の卒業生から多くの意見を聞きカリキュラムに反映させる。	カリキュラム表 離職調査結果
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	<input type="checkbox"/> キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか	3	<input type="checkbox"/> 学園独自のテキストに基づき、必要な能力を明確化し、その定義に沿って教育プログラムを実践している <input type="checkbox"/> ポートフォリオの活用計画を作成し段階を追って活用している	学習ポートフォリオの活用がまだ十分ではない。	フローで実践できるキャリア教育プログラムの構築を行う。	ポートフォリオ ハンドブックオブ ライフスタイル 入学前から始める！製菓・製パン・調理・カフェの基礎知識

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-3 続き	□キャリア教育の効果について卒業生・就職先等からの意見聴取や評価を行っているか		□業界訪問を通して欲しい人材に照らし合わせて意見を頂いている			業界訪問報告書
3-9-4 授業評価を実施しているか	□授業評価を実施する体制を整備しているか □学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか □授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか □教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか	3	□授業アンケートを年間2回実施し、その都度フィードバックを実施している。 □授業の集大成である卒業制作発表会にて業界より評価を頂き課題を頂戴している	授業アンケートを実施しているが講師へのフィードバックが不徹底である。	講師面談を実施する際に、授業アンケート結果のフィードバックを必ず実施し、今後の改善、評価を行う。面談の対応は、学部長、学科長、エキスパートリーダーを中心に行い、必要に応じて、教務部長、事務局長が対応する。	授業アンケート集計表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育課程の編成については、毎年学内の編成委員による1次策定の後、有識者で組織される教育課程編成委員会を年2回開催することで更にブラッシュアップを図るよう構築されている。</p> <p>これらの教育の評価については、エキスパートリーダーという専門の役職を置き、教務部長・学科長と連携を図り編成している。</p> <p>それらのメンバーが主導となり、定期的に学生からの授業アンケートエキスパートリーダーおよび学科長によるフィードバック面談を実施することで、教育力の向上に努めている。また、評価、分析することで、その時点の業界ニーズに応え、学生に合ったカリキュラムを作成している。</p>	<p>キャリア教育における教員向け教本である「ロードマップ」の中では、キャリア教育を「キャリア形成段階」「キャリア設計段階」「キャリア開発段階」の3つに分類し、それぞれの段階で「流れ」「課題」「方略」を示している。</p> <p>成績評価と単位認定の基準は、学則施行細則はもとより、「教育指導要領」及び「学生便覧」にしっかりと明記し、職員や講師、学生に周知徹底している。また、それらに基づき学生指導・支援にあっている。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか <input type="checkbox"/> 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか	3	<input type="checkbox"/> 学則及び学則施行細則にて明記し全学生に配付している <input type="checkbox"/> 試験規定を作成し、その基準に準拠し公正公平に評価している。また、進級や卒業については判定会議を実施している <input type="checkbox"/> 学則に単位読み替えについて明文化している。			学則 学則施行細則 進級判定会議議事録
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	<input type="checkbox"/> 在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	3	<input type="checkbox"/> 都度把握している。学校が指導・支援しコンテストに参加させ、結果はSNS や HP にその都度掲載している			ホームページ内のブログ等

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価及び単位認定の基準は明確に定めている。基準の遵守は徹底的に行っている。また一方で必要なレベルまできちんと到達させた上で進級、卒業が出来るように、成績不良が予想される学生に対しては、早期段階から補習を実施し、保護者とも連携して不足部分を補う体制を敷いている。	成績評価と単位認定の基準は、学則施行細則はもとより、「教育指導要領」及び「学生便覧」にしっかりと明記し、職員や講師、学生に周知徹底している。また、それらに基づき学生指導・支援にあたっている。

最終更新日付

2025年5月1日

記載責任者

阿部 憲一朗

3-11 資格・免許取得の指導体制

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	<input type="checkbox"/> 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか	3	<input type="checkbox"/> 入学前より動機付けを行い、入学後も継続し明確にしている。 <input type="checkbox"/> カリキュラムに対策講座を明記し補習についてもシステム化が出来る	ICT の活用が不十分でWEB 学習や自宅学習などがあまりできていない。	ICT 活用の研修会を行い、Teams,J-Web をはじめ、Web を活用した学びの場の提供を行う。	入学案内 カリキュラム
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	<input type="checkbox"/> 資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか	3	<input type="checkbox"/> 業務役割分担表に担当スタッフを選任し複数の担当教員と連携し受験指導をマネジメントしている。 <input type="checkbox"/> 希望者に受講スケジュールを案内している	卒後支援のシステム化が出来ていない。	同窓会と連動した卒後支援プログラムの構築	業務役割分担表 各資格検定対策企画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学科ごとに目標としている資格に対して、100%合格を目標に独自に対策を立て、実施している。特に、製菓衛生師国家試験については独自の対策システムとグループ校との連携で高い合格実績を継続している。	在学中不合格の場合や受験資格を取得の者は、卒業後も合格まで指導していく体制をとっている。資格によっては、通常授業の中に対策講座を入れている。また、通信課程においては時間割に放課後を利用して、特別対策講座を盛り込んで計画的に実施している。

最終更新日付

2025年5月1日

記載責任者

阿部 憲一朗

3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか <input type="checkbox"/> 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか <input type="checkbox"/> 教員採用等人材確保において、関連業界等との連携をしているか <input type="checkbox"/> 教員の採用計画・配置計画を定めているか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比など教員構成を明示しているか <input type="checkbox"/> 教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか	3	<input type="checkbox"/> 法定科目はコンプライアンスに沿って、一般科目は経験（職歴・教育暦等）で選任している。 <input type="checkbox"/> 履歴書・資格書の提出を持って確認している <input type="checkbox"/> 業界での経験を重視し適合しているかを確認している <input type="checkbox"/> 業界講師や企業に人材の紹介を依頼している <input type="checkbox"/> 例年後期より次年度に向けての計画作りを行っている <input type="checkbox"/> 学校基本調査等において明示している。 <input type="checkbox"/> 法定基準に基づく教員を採用すると共に手続きも本部と連携し適切に行なわれている。 <input type="checkbox"/> 教員変更届提出段階及び養成施設の自己点検表により毎年確認し把握している。	コンプライアンスに沿って適正な教員を配置しているが、授業科目によって該当する教員の選定が難しい場合があり苦勞している。	常に業界との接点をもつ事を念頭に置き、定期的な業界訪問、卒業生訪問を継続して行う。	カリキュラム表 教員一覧 教員履歴書・資格書 時間割 関係通知集

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	<input type="checkbox"/> 教員の専門性、教授力を把握・評価しているか <input type="checkbox"/> 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか	3	<input type="checkbox"/> 授業アンケートを通して把握・評価している <input type="checkbox"/> 教員向けの研修を実施している。 <input type="checkbox"/> 外部講師による研修と滋慶教育科学研究所主催の研修を受講している。	兼任講師へ向けた教授力向上の研修等の実施	年に1回の講師会議以外に事例等を共有できる研修を設定し教授力を向上させていく。	研修企画書
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 分野毎に必要な教員体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか	3	<input type="checkbox"/> 分野毎の教員はコンプライアンスに沿って整備し、組織役割表と業務役割分担表において分担と責任は明記している。 <input type="checkbox"/> 科目連絡会やTBMにて連携・協力体制をとっている。 <input type="checkbox"/> 授業アンケート・講師会議・オープン授業を通して改善を図っている			組織図 業務役割分担表 講師会議企画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>産学連携教育の強化のため、企業とコラボレーションした教育を展開できるカリキュラム・人材を強化している。</p> <p>評価体制としては、授業アンケートを通して、各教員の専門性の把握及び評価を行っている。</p> <p>教職員の質向上の取り組みは、OJT と教務研修を実施している。</p> <p>また、滋慶学園グループの同分野の姉妹校で組織した滋慶教育科学研究所 食文化教育部会の活動では、教育カリキュラムの情報交換をはじめ、技術指導教員の講習会などを定期的に行っている。</p>	<p>人材ニーズの変化や業界そのものの変化に伴う学科の養成目的/教育目的の見直しやカリキュラムの再構築に専従的に関わるエキスパートリーダーが組織されており、教務会議の中で学科の教育状況を定期的にチェックする機能を持っている。</p> <p>また、学科の育成目標を達成するために、教務スタッフについては教務研修を実施し、教授力向上とともにヒューマンスキルの向上も図っている。講師については講師がその分野のスペシャリストであること、また、同時に講師要件を満たしていることを講師採用において重点を置いている。採用決定の講師は、講師会議、科目連絡会を通して、授業運営に対する情報の共有化、成功事例の共有、また、学校側の考え、希望する方向性、養成したい学生像を共有し、問題・情報の共有、解決につなげている。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>【就職】 開校以来、それぞれの学科の専門領域の就職・内定100%のために就職支援・指導の徹底を教職員一丸となって取り組んでいる。 組織としてキャリアセンターを設置し、就職支援の専門教員を配置するとともに教務部と連携を図り、求人数の獲得、学生の内定を勝ち取るためのプログラムを構築している。希望者はほぼ専門領域の就職を実現している。目標に掲げる就職後1年以内の離職率も年を経るごとに改善しつつある。 留学生の就職支援については、留学生担当者とキャリアセンターが連携を図り、国内での在留資格取得に最大限の支援を行っている。</p> <p>【卒業・進級率】 退学者率は低下、進級者率は向上している。入学した学科で進級し、卒業する卒業進級者率の向上を新たな課題として取り組む。</p> <p>【国家試験（製菓衛生師）】 国家試験対策の担当者を配置し、模擬試験を計画的に実施し、学生の学習の進捗をデータ化し適宜、国家試験対策授業・補習を実施している 2021 年度の合格率は昼間部 97%と通信課程 89.4%であった。</p>	<p>【就職】 就職後1年以内の離職率0%の実現のために、現在まで培ったノウハウを生かし学生と就職先のマッチング精度を高めていく。 留学生については在留資格の要件拡大に併せてタイムリーに就職支援に結びつける。</p> <p>【卒業・進級率】 2年制学科における1年次の進級率が学校全体での課題である。また、精神疾患・発達障害・経済理由・留学生の帰国など多重化、複雑化する問題に対しての問題解決力の向上に取り組む。 問題解決に向けては、個では無くチームで取り組む事を基本とする組織を構築する。</p> <p>【国家試験（製菓衛生師）】 東京都の試験が2年生の6月に実施されるので1年生前半からの動機付けや要支援学生の把握と対策システムの構築が課題。対策の精度を高める為にも姉妹校との情報交換や研修等の充実を図る。 また、対策担当者が孤立しないよう、学内の体制作りも肝要となる。</p>	<p>アナログ的な対策だけではなく、LMS を活用した国家試験対策も強化したい。 学生の認知特性による影響を考慮すると、あらゆる方面からのアプローチが重要となる。</p>

最終更新日付

2025年5月1日

記載責任者

阿部 憲一朗

4-13 就職率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 就職率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動を把握しているか <input type="checkbox"/> 専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 就職率等のデータについて適切に管理しているか	3	<input type="checkbox"/> 就職目標を設定している <input type="checkbox"/> 就職活動状況表にてリアルタイムに把握している <input type="checkbox"/> 第一専門職の業界とは常に情報共有し就職状況を把握している <input type="checkbox"/> 業界団体のセミナーや本校主催のセミナーなどを実施している <input type="checkbox"/> 月に1回数値データとして管理している	業界全体として新型コロナウイルスの影響が回復傾向にあり、採用数も増加してきているが、留学生や年齢の高い学生の採用募集は大きく伸びておらず、卒業式段階で就職先が決まっていない学生が存在する。それらの学生をいかにして内定まで結びつけるかが課題である。	就職困難学生の対応を学校全体で取り組み、個別担当制を確立し信頼関係を構築し、卒後の就職支援強化を実施する。 新2年生においては、今年度の経験を活かし、早期内定を得られよう支援強化を図る。	就職5つの数字 就職活動状況表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
開校以来就職希望者の内定100%達成と就職者数の目標を重点目標として掲げている。毎月月末に、就職内定状況と以下の7つの項目で数字を確認し、問題がある場合の対策を立て実行する。 <ul style="list-style-type: none"> ・卒業年次在籍者数 ・就職希望者数 ・求人件数（職種別・有効求人数） ・内定者数（学科ごと、月ごとと累計） ・専門就職者数 ・月別内定シミュレーション ・学生就職活動状況表（学科クラス別） 	本校は、就職に関する相談室を「キャリアセンター」という名称で設置している。キャリアセンターは、本校に入学を希望する方から、在校生、同窓生まで幅広くキャリアアップ支援（就職支援、生涯学習支援）を行っている。 このキャリアセンターと担任教員が連携しながら一人ひとりの就職活動状況を把握しながら個別支援を行っている。キャリアセンターの目的は、 <ol style="list-style-type: none"> ① 入学希望者に卒業後の就職イメージを持ってもらう：入学希望者には、具体的な仕事の内容を理解してもらい、安心して学校を選んでもらえるようにする。 ② 在校生に対しての就職支援：在校生には面接時におけるスキルアップ指導や、筆記試験対策の実施等をサポートし、プロ意識を養い育てていく。 ③ 同窓生（卒業生）のキャリアアップ支援：卒業後の同窓生には就職した後にさらなるキャリアアップを考え、マネジメントやコーチングなどの実務レベルのスキルアップや、再就職支援を実施している。

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 資格・免許取得率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 特別講座、セミナーの開講等授業を補完する学習支援の取組はあるか <input type="checkbox"/> 合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか <input type="checkbox"/> 指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか	3	<input type="checkbox"/> 資格所得目標を設定している <input type="checkbox"/> 必修資格はカリキュラムに対策講座を組み込み、選択資格は放課後や長期休暇を利用して対策授業を実施している <input type="checkbox"/> 比較を行っており国家試験は全国でもトップクラスの合格率である <input type="checkbox"/> 国家試験対策会議を定例で実施し改善を図りながら指導している	低学力学生の個別対策の質の向上が課題である。	課題学生の特性に併せた対策授業の実施。	合格率一覧 資格検定企画書 時間割 オリジナルテキスト

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
開校以来、各学科のカリキュラムは、専門資格100%取得を重視して設計されている。	資格取得者数及びその推移の把握に関しては、各学科で <ul style="list-style-type: none"> ・自校の結果及び推移の把握、データ化 ・他校の結果及び全国の合格率の推移のデータ化を行っている。 また、グループ校の同学科で構成される教育部会を設置し、100%合格のための仕組み作りを行っている。

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	<input type="checkbox"/> 卒業生の就職先の企業・施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか <input type="checkbox"/> 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	2	<input type="checkbox"/> 就職先訪問と卒業生からの情報で卒業後の離職状況把握に努めている <input type="checkbox"/> コンテストでの受賞状況の把握に努めている	毎年同窓会を実施し、卒後の状況の把握や支援に努めているがタイムリーな対応ができるよう卒業後も学校への帰属意識をある程度持続してもらう必要がある	同窓会 HP や同窓会報の作成など、同窓生向けサポートを充実させることにより、卒業生にメリットとなる情報をリリースしていく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>業界で活躍している卒業生は14年分あり、ホテル分野で活躍する卒業生や開業した卒業生が生まれてきている。</p> <p>引き続き卒業生の活動を確実に学校として把握することと、卒後のフォローアップ体系を構築することで離職防止等にも役立てていきたい。</p>	開校から16年が経過し、パティシエ・調理・カフェとそれぞれの分野で活躍する卒業生の実績が出てきている。

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生が入学当初に立てた目標を達成できるように、各種支援体制を整備し、各部署連携を取り学生1人ひとりをサポートしている。</p> <p>（担任制）</p> <p>各クラスに担任を配置し、学生の学校内外のサポートを行う。問題によって下記のそれぞれの専属部署及び上長と連携し一人ひとりの問題解決のサポートを行っている。また、保護者との連携の為出席不良者の保護者には迅速に連絡を取る体制を構築している。</p> <p>（留学生支援）</p> <p>留学生支援として、留学生支援担当を中心に、留学生サロン（VISA申請を含む諸手続きや、授業・日本語の悩みなど日本での生活全般の不安を解消する目的で行なわれている）に取り組んでいる。この取り組みを継続し、質の向上を目指し、留学生がより良い環境で学校生活を送れるように努めた。</p> <p>（就職支援）</p> <p>専属スタッフの配置をし、卒業後の再就職支援も行なっている。</p> <p>（中途退学）</p> <p>学内支援のみならず精神的ケアに関わるチュードレントサポートセンター（SSC）（学校カウンセラー）を設置している。また学生全員にサポートアンケートを実施し、要支援者の早期把握に努めている。</p> <p>（学費サポート）</p> <p>学業継続を妨げる要因となりうる経済的困難者に対しては専門職員の配置や独自奨学金制度の構築などを行い、保護者も含め卒業を支援していく体制を整えている。</p> <p>（その他）</p> <p>怪我や病気・事故に対応する医療機関・サポート企業を有している。</p>	<p>現在、サポートアンケートを全学生に実施し、要支援学生のタイプ分類や傾向を分析している。分析結果を踏まえ、集団あるいは個への対応を行っている。</p> <p>集団アプローチあるいは、個人へのアプローチは、それぞれ手法が異なるので、ある程度の指導・支援スキルが求められる。</p> <p>その為、学生の傾向分析を行うと共に、対策を実行できるだけのスキルを習得させる研修も共に行う事が重要となる。</p> <p>また、問題が複雑化、多重化してきている昨今、担任だけが問題解決を図るのではなく、学校カウンセラー、講師、医師、保護者等、全ての支援人材と連携を図り、学生支援力を強化していく必要がある。</p> <p>専門的な知識が必要な場面も多くなり、担任のスキルアップが求められる場面が増えた。担任の業務バランスを改善するために、1クラス1担任での実施をベースとする。そのためにも、担任スキルを向上する研修を実施していく。</p>	

最終更新日付

2025年5月1日

記載責任者

阿部 憲一朗

5-16 就職等進路

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 就職など進路支援のための組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動の状況を学内で共有しているか <input type="checkbox"/> 関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 就職説明会等を開催しているか <input type="checkbox"/> 履歴書の書き方、面接の受け方など具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか <input type="checkbox"/> 就職に関する個別の相談に適切に応じているか	3	<input type="checkbox"/> キャリアセンターを中心に組織体制を整備している <input type="checkbox"/> 卒業年次生の担任とキャリアセンターで随時連携体制を構築している <input type="checkbox"/> 共通のファイルで常に閲覧可能な状態である <input type="checkbox"/> 就職セミナー・就職説明会を開催している <input type="checkbox"/> 履歴書指導・面接指導は就職講座と個別指導で実践している <input type="checkbox"/> 個別面談は随時行っており適切に対応している	近年、自身での就職試験に臨む準備が困難な学生がおり、個別の支援を要することがある。	学生の自己理解と就職意欲の維持向上のため、教員と学生だけでなく保護者を含めた密な就職支援が必要。また、キャリアセンターと卒業年次担任が定期的なミーティングを実施し、就職への動機付けから内定までの就職支援を行なう。	就職講座シラバス 就職活動一覧表 就職の手引き

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>キャリアセンターと担任教員が連携しながら一人ひとりの就職活動状況を把握しながら個別支援を行っている。</p> <p>また、各科で就職講座をカリキュラムに組み込んでおり、そこで就職の具体的活動に関する指導を行うと同時に、キャリアセンターにおいても随時相談に乗れる体制を整えている。</p> <p>尚、就職支援は1年次後期より下記のフローで行っている。</p> <p>STEP1： 就職講座開講（就職活動ガイダンス、動機付け、企業研究）</p> <p>STEP2： 自己分析・履歴書作成指導</p> <p>STEP3： 現場実習・業界訪問</p> <p>STEP4： 就職スタート行事（就職結団式・業界模擬面接会）</p> <p>STEP5： 学内企業説明会・選考会</p> <p>以降は随時 個別活動支援実施</p> <p>また、離職防止への取り組みを強化するために、学生個々と企業の特徴を踏まえた就職先の提案（マッチング）の取り組みの他、最低賃金や福利厚生などのチェック、奨学金の返還を踏まえたマネー教育などにも力を入れている。効果測定のために、卒業後1年以内の離職状況を調査し、実態把握と対策を講じている。</p>	<p>【WEB 就職システムの活用】 全国にある滋慶学園グループの求人情報がキャリアセンターで閲覧することができる。各校で同じ分野の求人を共有することができ、学生に対して多くの情報を提供することができる。また実習先や卒業生の情報を活用することができる。</p> <p>【学内企業説明会の実施】 企業の採用時期に合わせて開催し、学校に採用の担当者をお呼びし、面接試験などを行っている。オンラインを活用した説明会も実施し、企業情報を得る機会を増やすことができている。</p> <p>内定に繋げていくためには、学生の思いのほか、動機づけが重要になる。今後は、卒業年次担任の就職への学生支援力の向上が必要。</p> <p>【留学生の就職支援】 日本の食文化海外普及人材育成事業や特定技能に基づく在留資格の取得サポートを実施し、留学生の就業支援を行っている。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

5-17 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<input type="checkbox"/> 中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか <input type="checkbox"/> 指導経過記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか <input type="checkbox"/> 退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか	3	<input type="checkbox"/> 中途退学者の傾向・分析を毎年学科長を中心に総括している <input type="checkbox"/> 学生指導の履歴を月1回状況表に記入し保存している <input type="checkbox"/> SSCと連携し学生支援体制を構築している <input type="checkbox"/> 心理面はSSCとの連携、語学力が低い留学生に関しては、留学生支援センターにてサポートしている。	目標設定の強化と定点観測によるフィードバックの実施。 目的意識が低下している学生に対してのチーム支援。 また、精神的な問題を抱えている学生へのチーム支援。	モチベーション維持向上ができない学生に対し、小ステップをクリアさせていく支援計画を作る。また、精神面に課題のある学生対応はSSCを含め、チームで早期に関われる体制作りに取り組む。	サポートハンドブック キャリアサポートアンケート

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
2024年度の中途退学率 5.4%であり、進級率 89.4%であった。クラス関係不和、目的意識喪失、進路変更、精神疾患など、退学理由が多岐に渡っている。担任だけでなく、チームで対応することも重要である。将来的には進級率 95%を実現したい。	問題学生の中途退学理由分類を分析し、状況にあわせた学生支援、指導及びクラス運営を実施している。 また、問題解決をシステム（マニュアル）化し、教育力の向上を図っている。

最終更新日付

2025年5月1日

記載責任者

阿部 憲一朗

5-18 学生相談

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか <input type="checkbox"/> 学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか <input type="checkbox"/> 相談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 関連医療機関等との連携はあるか <input type="checkbox"/> 卒業生からの相談について、適切に対応しているか	3	<input type="checkbox"/> SSC を含むトータルサポートセンターにおいて支援体制を構築している <input type="checkbox"/> 担任授業内やポスター・カードにより学生への案内を行っている <input type="checkbox"/> 相談記録は閲覧を制限する形で保存している <input type="checkbox"/> カウンセラーの見立てによって適宜促しをしている <input type="checkbox"/> 卒業生には必要に応じて対応している	カウンセラーの相談体制、そして医療機関との連携、構築はできているが、周知ができていない場合がある。	授業内とポスター掲示・カード配布以外にも HP への誘導導線を強化していく。	SSC 紹介カード SSC ポスター
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に関する指導記録を適切に保存しているか	3	<input type="checkbox"/> 学内に留学生支援センターを組織し相談に応じている <input type="checkbox"/> 入学時オリエンテーションや留学生サロン内で適切に行なっている。 <input type="checkbox"/> 学生の希望にできるだけ副えるよう企業と連絡を取り就職支援をしている	就労ビザ取得の困難さがある。	日本人学生との関係性を良くする導入プログラムを導入、実施していく。	留学生導入研修企画書 留学生サロン企画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の学生相談室は、「滋慶トータルサポートセンター（以下 JTSC）」という名称で学生生活全般における不安や悩みの相談に対応している。センターには専属のカウンセラーが対応しており、学内との連携を図りながらサポートする体制が整備されている。</p> <p>また、学内に留学生支援センターを設置し、留学生特有の問題の解消に努めさせると共に、中国語圏の学生が多いので中国人スタッフを配置し、信頼獲得、不安解消にあたらせている。</p>	<p>JTSC を設置し、①精神面②学費③健康面などの相談をいつでも受け入れる体制は既に整備され、しかも有効的に機能していると考えている。</p> <p>また全教職員が「J E S Cカウンセラー資格」を取得し、カウンセリングマインドを持ち相談に乗っている体制を築き上げている。</p> <p>カウンセリング研修では学園内組織（滋慶教育科学研究所）が主催する「J E S Cカウンセラー資格」を全員に受講させ試験を実施することでカウンセリング技術の均一化を図る。</p> <p>心理学／カウンセリング基礎知識の習得を行うことで、学生相談室との連携が非常にスムーズに図られている。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

5-19 学生生活

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校独自の奨学金制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 学費の減免、分割納付制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか	3	<input type="checkbox"/> 大規模災害時や家計急変時には適宜支援している <input type="checkbox"/> 募集要項に減免制度を明記し運用している <input type="checkbox"/> 公的支援制度を適切に活用し適切に利用するように学生指導している <input type="checkbox"/> 学生・保護者に適宜文書と口頭で情報提供している <input type="checkbox"/> 経済支援制度の利用一覧を作成し実績をリアルタイムで把握している	学生サービスセンターと教務（担任・学科長）及び留学生支援センター・キャリアセンターと経済支援学生の情報を共有し状況に応じた支援をすることが課題。	奨学金利用学生と学費不安者の共有を常に行う。	奨学金学生納入一覧
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校保健計画を定めているか <input type="checkbox"/> 学校医を選任しているか <input type="checkbox"/> 保健室を整備し専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 定期健康診断を実施して記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 有所見者の再健診について適切に対応しているか	3	<input type="checkbox"/> 健康診断を計画的に実施し、有所見者の再健診を徹底している <input type="checkbox"/> 学校医を選任している。 <input type="checkbox"/> 学内に専門職員は配置していないが近隣に提携医療機関を配置。 <input type="checkbox"/> 定期検診・再検診について適切に対応している			健康診断結果

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-2 続き	<input type="checkbox"/> 健康に関する啓発及び教育を行っているか <input type="checkbox"/> 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 近隣の医療機関との連携はあるか		<input type="checkbox"/> 健康管理は就職活動に関連付けて啓発しており、心身の健康相談についてはSSCが兼ねている <input type="checkbox"/> 近隣に指定医療機関を置いている			
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 遠隔地から就学する学生のための寮を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか <input type="checkbox"/> 学生寮の数、利用人員、充足状況は、明確になっているか	3	<input type="checkbox"/> 学生寮を整備している <input type="checkbox"/> 寮長とは連携をとっており必要事項の共有を行っている <input type="checkbox"/> 寮との合同会議により明確になっている	学生寮担当の職員を配置しているが、対象学生と直接関わる機会が少ない	1 人暮らし者への定期的な面談を実施し、生活支援のサポートを行う。	
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか <input type="checkbox"/> 大会成績など実績を把握しているか	3	<input type="checkbox"/> 現在学校独自のクラブ活動は行っていない。 <input type="checkbox"/> クラブ活動の一環として、接客スキルとサービスマインドを体験を通して学ぶ「学生スタッフ」活動を組織し運営している。	授業外の活動として企業課題を頂き、放課後のゼミ形式で活動しているが学生の時間の確保が課題である。	学生に対してのメリットを明確にして魅力ある課題を提供していく。	企画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生の経済的側面の支援は、かなり高いレベルで出来ていると考えている。特に、グループ内資格（ファイナンシャルアドバイザー〔FA〕）を取得したスタッフによる学費相談会の実施によって、事前に学費相談を受けられ、資金のやり繰りをアドバイスできている。</p> <p>奨学金延滞率の公表に伴うリスクも勘案し、学生には徹底して「返済義務」についての教育を行っている。</p> <p>医療機関「慶生会クリニック」とも連携体制を構築しており、学生の心身に対するサポートは万全の状態といえる。</p> <p>学園グループで運営しているジケイスペースかさい学生寮本部の学生寮（約900部屋）を中心に、近隣の提携不動産との連携により住環境の整備を確立し手いる。</p> <p>クラブ活動の一環として、接客スキルとサービスマインドを体験を通して学ぶ「学生スタッフ」活動を組織し運営している。</p> <p>また、不定期で企業課題をゼミ形式で実施し正課外の産学連携教育を実施している。</p> <p>学生の夢を叶えるためには、学校のみならず家庭の協力が大変重要と考えている。学園の基本方針に「保護者からの信頼」を掲げ、学園全体でその信頼獲得にむけ、様々な施策を実行している。</p>	<p>主な経済支援制度</p> <p>学校保健安全法に基づき行われている定期の健康診断は4・5月中にすべての学生が受診することになっている。教職員は4～6月中に受診することになっている。また、学校医「慶生会クリニック」や「滋慶トータルサポートセンター」が学生の体と精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されている。</p> <p>学園で学生寮を完備しており、学生寮本部の生活アドバイザーが各寮を巡回し生活環境の整備や学生の支援ができる体制ができている。</p> <p>クラブ活動の一環として、接客スキルとサービスマインドを、体験を通して学ぶ「学生スタッフ」活動を組織し運営している。</p> <p>日々の出欠状況や生活面で気なることは即時に保護者と連携をとる体制や学期終了時には成績通知書の発送など常に保護者にも就学状況が分るような取り組みを行っている。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	<input type="checkbox"/> 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか <input type="checkbox"/> 緊急時の連絡体制を確保しているか	3	<input type="checkbox"/> 学内販売などの行事への参加を積極的に働きかけている <input type="checkbox"/> 保護者に向けた公開授業並びに保護者会を開催している。 <input type="checkbox"/> 必要に応じて保護者に連絡し、面談の内容の記録は保存している <input type="checkbox"/> 入学時の学籍簿・緊急連絡先・出席管理システムに記載している	問題を抱えた学生の保護者連絡を試みるが連絡が取れるまでタイムラグが発生するケースがある。また、複雑な問題を抱えている学生の保護者ほど、「学生任せ」の判断が多く、保護者からの協力を得られない場合も多い。	継続的に連絡を取る必要がある保護者についてはLINEなどのSNSの活用も併用してホットラインを構築する。	学籍簿

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生の夢を叶えるためには、学校のみならず家庭の協力が大変重要と考えている。学園の基本方針に「保護者からの信頼」を掲げ、学園全体でその信頼獲得にむけ、様々な施策を実行している。</p>	<p>日々の出欠状況や生活面で気なることは即時に保護者と連携をとる体制や学期終了時には成績通知書の発送など常に保護者にも就学状況が分るような取り組みを行っている。また保護者の方が学生の出席状況を把握できるように「学生ポータルサイト（保護者用）」を提示している。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 同窓会を組織し、活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか <input type="checkbox"/> 卒業後の研究活動に対する支援を行っているか	3	<input type="checkbox"/> 同窓会を組織し、活動状況の履歴を残している <input type="checkbox"/> 卒業生への就職相談に常に応じている <input type="checkbox"/> 同窓会と同時日程で講座を開講している <input type="checkbox"/> コンテスト対策などの支援を行っている	キャリアアップセミナーの更なる充実が課題。 同窓生が期を跨いで交流する文化にまで成熟していない。	キャリアアップセミナーの内容を卒業生のニーズに併せて実施していく。多くの同窓生に参加してもらえ、働きかけを行う	同窓会企画書
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか <input type="checkbox"/> 学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力を行っているか	2	<input type="checkbox"/> 卒業後の産学協同プログラムにまでは発展していない。 <input type="checkbox"/> 学内で実施する関連団体の講習会に卒業生が受講できる体制を取っている	卒業生対象の産学協同プログラムには成熟していない	同窓会等で卒業生からヒヤリングして抱えている問題や希望をまとめ実施に繋げていきたい	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	<input type="checkbox"/> 社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか	3	<input type="checkbox"/> 社会人の入学規則は学則と募集要項に明記している。 <input type="checkbox"/> 学則施行細則に長期履修制度を明記している <input type="checkbox"/> 学校施設の利用については、放課後・休日を利用できる配慮をしている <input type="checkbox"/> キャリアセンター・担任が中心となり支援			募集要項 教育指導要領

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>卒業生を正会員とした同窓会組織がある。同窓会の目的は、会員相互の親睦、キャリアアップと母校教育の振興に寄与することである。 また、卒後の資格取得サポートや再就職支援体制についてもシステムが確立されている。</p>	<p>【生涯就職支援システム】 キャリアアップを目指す卒業生や転職を希望する卒業生に対して、キャリアセンターでは卒業後も就職の支援をしている。</p> <p>【国家試験フルサポート制度】 国試取得に向けて、卒業後も対策講座を無料で受講できる体制を整備している。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>建学の理念に掲げている実学教育を実践するための教育環境整備に取り組んでいる （施設・設備） 専門職としての技術を磨くための施設や機器を完備し、プロの現場と同等の器具、環境で実習授業を受けることで、学生の学習意欲を喚起することにも繋がっている。 （学外・海外研修） 教育の質の向上のため学外での現場実習・研修が重要と捉え、学習環境設定の打ち合わせを実施した上で学生個々に合った実習先の選択と確保を行なっている。また海外研修においても、世界トップレベルのイタリア研修機関及びフランスの研修機関と教育連携し毎年実施している(希望者：パティシエ科・パティシエ実践科・調理師科) カフェビジネス科に於いても新たな研修先を検討していく。 （安全管理） 学内外の実習では、事故も起こりやすいのでリスクに対し取るべき行動を明示し、学生や教職員に徹底周知させている。防災に関しては毎年訓練を実施し危機意識を高めている 設備・プログラム内容は適切であると考えているが、教員のスキル、実施内容の詳細、学生の個別的事情への支援の充実を図る必要がある。</p>	<p>施設設備において学生ホールのような多目的で使用できる場所がないので、普通教室や図書室などを有効活用できるよう学生に案内している。</p> <p>現場実習に関しては養成目的・教育目標の達成のための一連のプロセスの中で設定しているが、学生の習熟度により選択できる選択プログラムに切り替える。未選択の学生に関しては、学内の授業とのキャリア教育の視点からみた関連性を整備していく必要がある。</p> <p>海外研修に参加することは学生にとって大きな経験であるので全員参加が望ましいが、経済的事情で参加できない学生が数多くいるが告知期間を長く取ることにより渡航資金を計画的に準備できるようにしていく。</p>	<p>海外研修においては世界情勢の影響により、フランス・イタリアについては中止となり、韓国での研修を実施した。 今後、問題なく渡航できる状況になったら、実施する。</p>

最終更新日付

2025年5月1日

記載責任者

阿部 憲一朗

6-22 施設・設備等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	<input type="checkbox"/> 施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか <input type="checkbox"/> 図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか <input type="checkbox"/> 学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 卒業生に施設・設備を提供しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか	3	<input type="checkbox"/> 施設設備は毎年整備し且つ法令にも遵守している <input type="checkbox"/> 図書や実習機材器具についても整備している <input type="checkbox"/> 専門図書や最新の業界雑誌の定期購入をしている <input type="checkbox"/> 昼食の教室を確保し告知している <input type="checkbox"/> 法令に準じた校舎になっている。 <input type="checkbox"/> 清掃等衛生を徹底している <input type="checkbox"/> 卒業生にも希望に応じて施設を開放している <input type="checkbox"/> 施設設備の点検は専門の業者に委託し定期的に点検している <input type="checkbox"/> 年度毎、また中長期計画に基づき不具合箇所を洗い出し改築・改修を行っている			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>当校の施設設備は以下の基準を全て充足している・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専修学校設置基準 ・製菓衛生師・調理師養成施設設置基準 ・各種資格認定団体認定校 設置基準 ・消防法に関する基準 ・バリアフリー条例基準 ・その他の建築基準 <p>実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室が実際の現場で使われている設備を揃えていることが、必要不可欠である。実践教育のための学内施設、設備はかなり高いレベルで整備されていると考えている。</p>	<p>スペシャリストとしての技術を磨くための最新施設や機器を完備し、プロの現場と同じ環境で実習授業を受けることで、学生の学習意欲を喚起し、専門就職、資格合格率向上に繋げている。</p> <p>授業以外でも、個別の課題に取り組む環境を用意している。</p>

最終更新日付	2025年5月7日	記載責任者	斎藤 真梨子
--------	-----------	-------	--------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか <input type="checkbox"/> 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか <input type="checkbox"/> 学外実習等の教育効果について確認しているか <input type="checkbox"/> 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか <input type="checkbox"/> 卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか	3	<input type="checkbox"/> 教育・就職スケジュールの中で重要性や意義・目的を明確にしている <input type="checkbox"/> 企画書・実習ノートを整備し適切に運用している <input type="checkbox"/> 企業に受け入れをしていただき研修を実施している <input type="checkbox"/> 5段階で評価していただき、規定日数の実習実施と報告書の提出を持って評価している <input type="checkbox"/> 各実習先に担当の教職員が実習期間中または実習期間後に訪問する <input type="checkbox"/> 評価表と実習日誌の表記内容を確認し教育効果を確認している <input type="checkbox"/> 学生が自ら考える機会を考慮し行事に参画させている <input type="checkbox"/> 目的に沿って対象を吟味し案内している	学外実習への参加意欲を向上させ、円滑に学外実習が進む様に教育することが課題である	事前教育での動機付けとして業界連携を含めたプログラムを計画的に実施することにより学外実習の主体的参加を促す	実習日誌

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>多様化する学生のニーズに応じて自ら学外実習の希望先を提出してもらい業界に打診して学外実習を選定している。海外研修には教育提携校である「フランス・ヴァローナ」「イタリア・イチフ」のハイレベルな教育機関での実習を組み込み学習効果の高いプログラムを構築している。</p> <p>海外研修の渡航先に関しては、学園の国際事業部と連携をして各学科の目指す業界に対して一番の先進国であり、そこでの活動を十分に体験出来ることを前提に選定している。海外研修は、この国際教育という理念に基づく主要な教育実践の場と言える。海外研修は、学園の考えでもある「国際教育」を実践するものである。</p> <p>学外実習については実習概要から承諾、事前・事後教育、研修ノート、評価方法に至る一連の流れをマニュアル化している。</p> <p>また、学外の実習中における事故に関する契約も先方企業に調整の上、締結している。</p>	<p>学外実習・インターンシップ・海外研修を行うことで、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。</p> <p>今後は学外実習先における機密事項の取り扱いやSNSに関するモラル教育を充実し、実習生が個人情報保護をはじめとしたコンプライアンスについても理解を深める教育が必要である。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

6-24 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的な行動のマニュアルを整備しているか <input type="checkbox"/> 施設・建物・設備の耐震化に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災・消防施設・設備の整備及び保守点検は法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災（消防）訓練を定期的に実施し、記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 備品の固定等転倒防止など安全管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 学生、教職員に防災教育・研修を行っているか	3	<input type="checkbox"/> 学園より学生・職員に対しての防災マニュアルを配付し、施設内の避難誘導整備を行っている。 <input type="checkbox"/> 耐震構造の建物である <input type="checkbox"/> 定期的に点検し改善を行っている <input type="checkbox"/> 防災訓練を年1回実施している。訓練の為の訓練ではなくより緊張感のある実践的な訓練（役割当日付与）に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> ロッカーの転倒・滑り止めの対策を行っている <input type="checkbox"/> 学生・教職員に防災訓練と教育を実施している	防災への意識向上と有事の時に訓練どおり学生を適切に安全に守れるよう、全教職員ならびに非常勤講師へのマニュアルの浸透と防災対応力が課題である		各種実施報告書 誘導マニュアル
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校安全計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか	3	<input type="checkbox"/> 学校の安全計画と救急時の対応方法を確立し整備している <input type="checkbox"/> 校内の貴重品 BOX の設置にて対応している <input type="checkbox"/> 事故後はその報告を所定のフォーマットにて報告し適切に対応しているかチェックしている	学生のロッカールームの施錠不備や貴重品の放置による紛失事例を如何に無くすかが課題である	防犯カメラを設置とロッカールームの見回りと施錠指導により防犯意識を高めるとともに紛失を予防する	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-2 続き	<input type="checkbox"/> 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか	3	<input type="checkbox"/> 薬品は無いが、火気を扱う為、常に火元の点検を各セクションと担当で分担している <input type="checkbox"/> 担当を必ず置き引率体制を引いている			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>設備の耐震化については適切に対応している。</p> <p>防災に対しては、マニュアルの整備、スタッフの役割分担、学生への情報提供など体制の整備はされている。</p> <p>救急時における機器・備品も準備されている（全学生人数分の3日間分の食料、簡易トイレ、備蓄水、発電機、AEDなど）。</p> <p>設備・機器のマニュアルをそれぞれの設置している教室に常備し、情報伝達に役立てている。</p> <p>学内での盗難予防の観点から、日頃から全教職員でロッカーの施錠の徹底と学生の忘れ物発生予防の意識を高め啓蒙活動に取り組んでいる。</p>	<p>防災、火災訓練を実施し、学生、教職員、講師へ避難手順や方法を指示し実施している。</p> <p>救急時における知識の習得と意識付けは出来ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の実施と便覧へのマニュアルの記載で、学生・教職員・講師全員の防災の意識を高めている。 ・職員室内に自動体外式除細動器（AED）を設置している。

最終更新日付	2025年5月7日	記載責任者	斎藤 真梨子
--------	-----------	-------	--------

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容を遵守している。</p> <p>（広報・告知） 各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページ、SNS を活用し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。</p> <p>（入学選考） 基準を募集要項に明示し、決められた日程に実施している。また、入学試験後は、学校長、事務局長、全学科長、部署リーダーにより構成される、「選考会議」により基準に基づいて可否を確定している。面談結果・書類内容・選考試験が実施されている場合、その結果を踏まえ、食業界で働くことに適性があるか総合的に判断している。</p> <p>（学納金） 毎年、各学科・各部署において、教材ならびに講師料の見直し、その他諸経費の無駄な支出はないかチェックしている。その上で、学費の見直しを実施している。</p> <p>保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を明示し、期の途中で追加徴収を基本的に行わないようにしている。</p> <p>募集活動自体に大きな問題はないと考えるが、多くの同分野の専門学校があるので受験生に的確に学校の特長を示す更なる努力と、経済的理由から進学を断念する受験生の対応を充実させる必要がある。</p>	<p>受験生の進路活動をより適切に支援できるよう分野決定・学校認知段階から出願・入試に至るまで一貫して分かり易く、学校の特長・教育内容・卒業後を伝えることに留意し、紙媒体、ネット媒体、体験入学を展開していくことに努める。</p> <p>また、経済的困難を抱える受験生に対しての支援プログラムが提案できる人材の育成に取り組んでいく。</p> <p>進路決定の早期化に対応し、高校1年生、2年生が参加できるオープンキャンパスや、入学までのモチベーションアッププログラムや技術力向上プログラムを実施していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験授業を開催し、プロ講師によるオープンキャンパスに複数参加することで基礎的な技術のステップアップを図り、成長の実感が得られるよう構成している。 ・将来の希望分野への適正をきちんと見極めるため、面談の比重を多くしている。結果として学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている。 ・AO入試を導入し、学力に捉われず、キャリア教育の一環として、よりやる気を重視した学生確保にチャレンジしている ・学園グループ全体で FA（ファイナンシャルアドバイザー）の育成に力を入れている ・業界と連携した体験授業を実施し、流行のメニューを学んだり、卒業後の働き方をイメージしたりできるようにしている。 ・合理的配慮の必要な入学希望者については学園内のカウンセラー（臨床心理士）と連携して受け入れ態勢を整えている。

最終更新日付

2025年5月1日

記載責任者

阿部 憲一朗

7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか <input type="checkbox"/> 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか <input type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか	2	<input type="checkbox"/> 学外で行なわれる進学相談会に適宜参加している。 <input type="checkbox"/> 特別に教職員対象では行なっていないが要望があれば対応する <input type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの「学校案内」は作成していない。	本校から高等学校に働きかける機会が少ない	年間スケジュールに沿って高校訪問や送付等で情報提供を行なう。 HP上で、教員又は保護者向けに情報を発信していく。	募集要項 学校案内
7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	<input type="checkbox"/> 入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか <input type="checkbox"/> 専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか <input type="checkbox"/> 志願者等からの入学相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか <input type="checkbox"/> 広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか	3	<input type="checkbox"/> 適切な募集活動を行なっている。 <input type="checkbox"/> オープンキャンパスを開催し、常に来校して相談できる環境を整えている。全教職員に対して広報に関する勉強会を実施し、誰でも対応できる体制にしている。 <input type="checkbox"/> 学校案内等において具体的な就職データ、資格取得データを明記し、正確に情報を伝えている。 <input type="checkbox"/> 校内に個人情報保護委員会を設置し、管理と研修の徹底を図っており、日本プライバシー認証機構の個人情報管理者研修プログラムのライセンスを取得している。	入学検討者への周知のツールが多岐にわたるためそれぞれのツールに合わせた周知内容の整備が必要。	入学案内、ホームページ、SNS (instagram, Youtube, tiktok,) 進学媒体、紙媒体、など役割を明確に分けて周知を行う。	募集要項 学校案内 本校 HP http://www.seika.belle.ac.jp/ 公式 Twitter 公式 Instagram

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	<input type="checkbox"/> 体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか <input type="checkbox"/> 志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れているか	3	<input type="checkbox"/> 土日や平日夜などもオープンキャンパスを実施し多くの参加機会を提供している。 <input type="checkbox"/> 選考方法は、高校生・社会人を対象としたAO入試や、留学生を対象とした留学生入試など多様な入試制度を導入している。 <input type="checkbox"/> 出願及びAOエントリーについては従来の紙とWEBエントリーの両立からWEBエントリーのみに統合することで、入学希望者の利便性向上を図った。	体験授業だけではなく、実際の授業も見たいというニーズが出てきている	学校行事や授業は随時公開しており、平日や祝日の授業見学会も実施している。	体験授業告知DM 本校 HP http://www.seika.belle.ac.jp/

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校は、東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容（推薦入試による受け入れ人数等）を遵守している。	体験授業を軸としたオープンキャンパスを複数回参加、また、業界と連携したオープンキャンパスを適宜実施し、教育内容や職種への適正が確認できるようにしている。 その上で、早期出願者に対し、出願時のモチベーションを入学時まで維持できるよう「プレカレッジ（入学前教育）」を実施している さらに、留学生については、留学生向けの説明会を実施し、適切な進路指導を行っている。

最終更新日付

2025年5月1日

記載責任者

阿部 憲一朗

7-26 入学選考

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 入学選考等は、規程等に基づき適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか	3	<input type="checkbox"/> 入学選考基準・方法は学則及び募集要項に明記している。 <input type="checkbox"/> 入学試験後に学校長、学校責任者、全学科長及び広報責任者により構成される、「選考委員会」で基準に基づいて公平に合否を確定している。	社会人・留学生・遠方者などに対してより配慮した環境を整えて行きたい。	志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れていく。	募集要項 選考会議議事録
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	<input type="checkbox"/> 学科毎の合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか <input type="checkbox"/> 学科毎の入学者の傾向について把握し、授業方法の検討など適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学科別応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか <input type="checkbox"/> 財務等の計画数値と応募者数の予測値等との整合性を図っているか	3	<input type="checkbox"/> 開校以来のデータを学内の共有サーバーに集約・保管している。 <input type="checkbox"/> 毎年4月に入学者全員を対象としたアンケートを実施し、入学者の傾向(人数・男女比・年齢比・性格タイプ等)を分析し、クラス運営に役立てている。 <input type="checkbox"/> 当該年度の予測数値に関しては、過去のオープンキャンパス参加者等の実績データから、早期に的確に予測できるノウハウがある。また、入学者数の予測数値に関しては5年先までの計画を立てている。 <input type="checkbox"/> 財務に関しても5年先まで計画を作成しており、その進捗度合いを毎年チェックしている。また入学者数の予測と収入予測の整合性も取れている。	辞退者の発生により、予測数値との差異が出る場合がある。	環境や社会の変化を鑑みた予測を定期的に行う。 プレカレッジ(入学前教育)で新入生の状況を把握し、入学後の支援に役立てていく。	現況データ 入学者アンケート 広報総括データ 5ヵ年計画表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。 入学選考規定については学内での選考規程を基にした募集要項を発行し受験生に適切に告知している。 各回の選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。</p>	<p>各回の入学選考は学内で組織する選考委員会により基準を基にした合格判定を適切に行っている。</p> <p>また、各回の受験者・合格者の実績は台帳管理している他、入学手続き完了管理（入金管理）も同時に行うことで応募者数の予測に生かしている。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一郎
--------	-----------	-------	--------

7-27 学納金

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	<input type="checkbox"/> 学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学納金の水準を把握しているか <input type="checkbox"/> 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか	3	<input type="checkbox"/> 学納金や預かり金、教材及び講師の見直しを、毎年学科長、学校責任者、学生サービスセンター責任者が参加する会議にて行っており、学費及び諸経費の無駄な支出がないかチェックしている <input type="checkbox"/> 競合する他校の学納金を調査し、適正な学納金を定めている。 <input type="checkbox"/> 徴収する金額は募集要項上にすべて記載している。	経済事情が複雑化・多様化しているため、奨学金、教育ローンなど入学希望者のニーズにあわせた内容のアドバイスできるようにしていく必要がある。	納入額、納入方法など基本の情報はスタッフ一人ひとりが説明できるように情報共有をしておく。 また、個別性の高い相談に対応するためにも、専門部署を置き、研修や情報収集に努めている。	募集要項
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	<input type="checkbox"/> 文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか	3	<input type="checkbox"/> 募集要項に明記しており、入学辞退の申し出があった場合には適切に対応している。			募集要項

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学納金は、その学科の教育目標達成（卒業時の到達目標）を目指した学校運営に必要な金額であり、人件費（講師・教職員）、実習費、施設管理・運営費等に充てられている。 毎年、各学科において教材及び講師の見直しを行っており、諸経費の無駄な支出をチェックしている。各学科から、素案として提出されたものを、最終的に学校事務責任者の事務局長がチェックして、厳正に確定をしている。	入学以前の募集要項上において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい状況にある。 学費に不安のある受験生については、専門部署のスタッフが個別に対応し、納入計画をたてる等の対応を行っている。

最終更新日付

2025年5月1日

記載責任者

阿部 憲一朗

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>毎年 5 か年の事業計画を策定し、中長期の視点で予算を立てている。</p> <p>また収入と支出のバランスは、理事会で毎年確認されている。</p> <p>学園本部の機能として二重チェックの体制となっており、学校の財務体制をしっかりと管理し、健全な学校運営ができるような仕組みになっている。</p> <p>また、監査は私立学校法上義務付けられている「監事監査」のほか、「公認会計士による監査」も受けている。</p> <p>さらに、私立学校法に基づいた財務情報公開の体制を、平成 17 年 4 月から整備している。</p> <p>※当校における情報開示の申請は、現状ではない。</p>	<p>健全な学校運営を行うため、5 か年の事業計画、収支予算は有効かつ重要な手段と考える。</p> <p>しかし近年は、環境の変化が激しく、正確な予算作成が難しくなっている一面もある。</p> <p>加えて、責任者のみならず、全ての教職員への収支情報の周知徹底が必要不可欠であり、教職員に対するさらなる研修、勉強会の充実は急務である。</p> <p>また、学科や部署毎にさらに細かい予算管理を行っていく事が肝要となる。</p>	<p>当法人の財務情報公開に関しては、下記の通りとなっている。</p> <p><組織体制></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法人統括責任者 2. 学校統括責任者 3. 学校事務担当者 <p><公開資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 財産目録 2. 貸借対照表 3. 収支計算書 4. 事業報告書 5. 監査報告書 <p><閲覧場所></p> <p>法人本部</p>

最終更新日付	2025 年 5 月 1 日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	----------------	-------	--------

8-28 財務基盤

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<input type="checkbox"/> 応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか <input type="checkbox"/> 収入と支出はバランスがとれているか <input type="checkbox"/> 貸借対照表の翌年度繰越収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか <input type="checkbox"/> 消費収支計算書の当年度消費収支超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか <input type="checkbox"/> 設備投資が過大になっていないか <input type="checkbox"/> 負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか	3	<p>毎年事業計画書を作成し、5か年の収支予算を立てている。</p> <p>その中で入学者数、在校生数、退学者等を勘案して学費明細を作成し、収入予算の推移を把握している。</p> <p>また新学科構想、設備について計画し、支出予算を作成している。</p> <p>借入金等長期資金の計画については、都道府県の基準の範囲内で計画・実行している。</p> <p>これらは理事会・評議員会にて承認、報告がなされている。</p>	<p>キャッシュフロー、資金収支の視点を、学校運営関係者全員で共有する必要がある。</p>	<p>教職員への研修、勉強会等の充実ならびに学科・部署毎の予算管理も必要と考える。</p>	
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<input type="checkbox"/> 最近3年間の収支状況（消費収支・資金収支）による財務分析を行っているか <input type="checkbox"/> 最近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか	3	<p>キャッシュフローに基づいた学校運営を重視しており、経費予算のみでなく施設設備支出、借入金返済等を考慮した資金収支の予算も作成している。</p>	<p>評価及び見直しについて、数値の基準等明文化がされていない。</p>	<p>財務分析をした上で、分かりやすい基準等の策定が必要と考える。</p>	

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-28-2 続き	<input type="checkbox"/> 最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか <input type="checkbox"/> キャッシュフローの状況を示すデータはあるか <input type="checkbox"/> 教育研究費比率、人件費比率の数値は適切な数値になっているか <input type="checkbox"/> コスト管理を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 収支の状況について自己評価しているか <input type="checkbox"/> 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか		毎月学園本部の財務担当ならびに学生サービスセンターと、支出状況を確認している。乖離がある場合には、次月以降の予算執行計画の見直しを行い、健全・適正な運営がなされている。	支出割合の高い広報、教育項目に関し、適宜修正が行えるようなシステムを、いかに構築するか。	それぞれの責任者と定期的に執行状況を共有し、適宜修正が行える場を設けていく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>5年間の中長期的事業計画を立て、その中で収支計画を作成している。5年間の計画を立てることによって、短期的視点だけではなく中長期的な視点に立って学校運営を計画することになる。</p> <p>また、チェック機能を充実させており、常に情報の把握から分析できる体制を整えている。</p> <p>5ヵ年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができるため、財務基盤の安定に資するための大規模な計画もじっくりと立てることができ、この方針は今後も続けていこうと考えている。</p>	<p>財務基盤の安定を図るために、指揮命令の系統を明確にし、計画（予算）の確実な遂行、予算と実績の対比により計画通りに実行されているかを確認する。</p> <p>このような体制により、厳しいチェック及び評価が行われ、いわゆる債務超過や資金不足に陥る状況にはなっていない。そのため、中長期的には財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朝
--------	-----------	-------	--------

8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<input type="checkbox"/> 予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか <input type="checkbox"/> 予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか	3	<input type="checkbox"/> 安定した財務基盤の上で教育活動を行なっている。 <input type="checkbox"/> 学校⇒本部⇒学園本部⇒理事会・評議員会の流れで承認されている	予算執行状況によっては、授業内容の変更が必要となってくるが、いかにスムーズに行うか。	講師との予算共有を図る。	事業計画
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<input type="checkbox"/> 予算の執行計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 予算と決算に大きな乖離を生じていないか <input type="checkbox"/> 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか <input type="checkbox"/> 予算規程、経理規程を整備しているか <input type="checkbox"/> 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど誤りのない適切な会計処理を行っているか	3	<input type="checkbox"/> 収支計画（予算）は5年間作成され、そのうち次期1年間の予算については具体的に作成している。 <input type="checkbox"/> 予算と決算のバランスは取れている <input type="checkbox"/> 修正がある場合理事会承認の下に適切に実行している。 <input type="checkbox"/> 月毎の執行確認を学園本部の会計担当と行なっている	環境の変化が激しいこの時勢に、正確な予算を作成することが以前に比べて難しくなっている。	学納金の納入状況や値上がりによる一般経費の変動を想定し、より緻密な計画を作成する	事業計画

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>収支計画は各学科の入学者数目標と予測、在籍者目標（中途退学・進級者）と予測から綿密な計画を立てている。学校、学科を取り巻く環境を常に考慮し、単年度毎に見直し、健全な学校運営・学科運営が出来るよう努力している。収支計画（予算）は5年間作成され、そのうち次期1年間の予算については具体的に作成する。また予算編成については、学校・学園本部・理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実に即したものになっていると考える。</p>	<p>当初予算→四半期予算実績対比→修正予算→決算という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。</p>

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

8-30 監査

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	<input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか <input type="checkbox"/> 監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか	3	体制を整えるべく、当法人は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会においてその報告をしている。実施スケジュールも年度当初に決定している。公認会計士による会計監査は指摘があれば会計処理等の修正を行い、適正な計算書類の作成に尽力している。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
体制を整えるべく、学校法人滋慶学園は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会においてその報告をしている。最終的には5月に実施される理事会及び評議員会に計算書類が適正であるかどうかを記載した監査報告書を提出している。	主なフローは以下の通り。 ①取引→②仕訳→③帳簿→④総勘定元帳→⑤試算表→⑥計算書類作成→⑦公認会計士及び監事の会計監査→理事会・評議員会による承認→行政へ報告

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

8-31 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 財務公開規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか <input type="checkbox"/> 財務公開の実績を記録しているか <input type="checkbox"/> 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか	3	<input type="checkbox"/> 学園本部が中心となり規定の整備、報告書などの作成、実績の記録を行っている。 <input type="checkbox"/> ホームページによる情報公開は行なっていないが、学校法人滋慶学園本部（東京都江戸川区東葛西）にて実施している。 <input type="checkbox"/> 私立学校法に基づく財務情報公開に向けて本部と連携を図り、財務情報公開規程ならびに情報公開マニュアルを作成している。	担当者のみではなく、教職員への周知徹底も必要不可欠であると考えている	全教職員への研修を実施	<公開書類> 1. 財産目録 2. 貸借対照表 3. 収支決算書 4. 事業報告書 5. 監査報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法律改正に迅速に取り組み、外部関係では寄附行為の変更認可及び行政への届出、そして内部関係では財務情報公開規程及び情報公開マニュアルを作成し、財務情報公開体制を整備している。 尚、平成 25 年度より財務状況をホームページによる公開を開始している。	<体制> 1. 法人統括責任者 (常務理事) 2. 学校統括責任者 (学校運営の現場責任者＝事務局長) 3. 学校事務担当者 (学校の経理責任者＝学生サービスセンター長)

最終更新日付	2025 年 5 月 1 日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	----------------	-------	--------

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校法人は文部科学省の規定する専修学校規定ならびに厚生労働省の規定する各国家試験に関わる養成施設指定規則&養成施設指導要領に準拠していなければならない。</p> <p>特に国家試験系の調理師や製菓衛生師の運営チェックは厚生労働省が推奨している「養成施設自己点検表」に基づいて行っている。</p> <p>本学園では法人理事会の元に、コンプライアンス委員会を設立し、学校運営が適正かどうか判断している。</p>	<p>変更や承認申請に関し、専属担当者のみで行うと、遅滞、漏れ等に対する対応が後手に回ってしまう事がある。</p> <p>この状況を回避する為には、チームを編成し、チームで進めていく事が重要となる。</p> <p>よって、そのチームの編成をどのように組んでいくかが重要となる。</p>	

最終更新日付

2025年5月1日

記載責任者

阿部 憲一朗

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	<input type="checkbox"/> 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか <input type="checkbox"/> 学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> セクシュアルハラスメント等ハラスメント防止のための方針を明確化し、防止のための対応マニュアルを策定して適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談受付窓口を設置しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか	3	<input type="checkbox"/> 法人において、法令や設置基準の遵守に対する方針を「コンプライアンス推進規程」として整備し、届出等を適切に実施している。 <input type="checkbox"/> セクシュアルハラスメント等について就業規則に明記している 職場内で相談できない外部の相談窓口を設けている。 <input type="checkbox"/> 学生においては特に実習前などに法令遵守についての講習を行なっている。職員に対しても研修を行なっている	学生の実習先でのコンプライアンスの遵守や日常的なSNSの取り扱いなど。	継続した IT・DX リテラシー教育の徹底が必要である。	IT・DX リテラシーテキスト

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法令を遵守するという考えを学園の方針に掲げ、教職員全員でその方針を理解し実行に努めている。法人理事会の元に、コンプライアンス委員会を設立し、学校運営が適正かどうか判断している。</p> <p>現状では、学校運営、学科運営が適正かどうかは、各調査においてチェックできるようにしている。</p> <p>自己点検及び学園内でのコンプライアンス委員会による監査によって適正な運営であるかチェックしている。</p>	<p>(①) 組織体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 財務情報公開組織体制（あり） ② 個人情報管理組織体制（あり） ③ 広告倫理管理組織体制 ④ DX委員会・滋慶CSIRT ⑤ 進路変更委員会 <p>(2) システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ①個人情報管理システム ②建物安全管理システム ③防災管理システム ④物品購入棚卸システム ⑤コンピュータ管理システム

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<input type="checkbox"/> 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか	3	<input type="checkbox"/> 個人情報は、校内に個人情報保護委員会を設置し、厳重に管理し、研修の徹底を図っている。 <input type="checkbox"/> 個人データを蓄積した記録の取扱いに関しては、外部のインターネットとつながらない独自のシステム（AS400）にて適正に管理し、認証を受けた者以外が情報を見ることができない仕組みになっている。 <input type="checkbox"/> サイトの運用にあたっては、TRUSTeプライバシー・プログラムのライセンスを取得し、適正に行なわれている。 <input type="checkbox"/> 教職員に対しては、就業規則等にも個人情報保護を明記すると共に、定期的な教育・研修を実施している <input type="checkbox"/> グループ共通で学生・職員・講師用向けにIT・DXリテラシーのテキストを作成し、研修、試験を実施している。	SNSに関しては、年々、新しいものが取り入れられてきているので、それらに対応していく為の知識、技術をいかに獲得していくかが課題である。	システム等を担当している関連企業との連携を更に密に図っていく事が肝要となってくる。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>全ての役員・教職員・講師が個人情報に関する法規範を遵守し、個人情報保護に関する基本理念を実践するために「個人情報保護基本規程」を構築し、社会的要請の変化にも着目し、個人情報保護管理体制の継続的改善にも取り組んでいる。</p> <p>学校という業務上、日々、大量の個人情報を扱っている。その管理においては外部機関の「TRUST e」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新しホームページ上に明記している。また、教職員研修、学生への教育を徹底し、情報漏えいのないよう努めている。</p>	<p>主な事項は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な個人情報の収集、保管、使用、開示及び提供に関する事項。 保管している個人情報の保護・修正・変更に関する事項。 対外的な当校の個人情報取扱についての周知、問合せ・苦情受付に関する事項。 教職員への教育・研修、周知徹底に関する事項。 <p>個人情報を取り扱う業務の外部委託先については、「選定チェック表」により審査をし、業務委託時には「業務委託契約書」に保護を明記させ「個人情報保護誓約書」を提示させている。</p> <p>個人情報保護最高責任者資格（認定 CPO 資格）を取得した職員を配置</p>

最終更新日付	2025 年 5 月 1 日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	----------------	-------	--------

9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施に係る組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか	3	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則等への規定の整備をしている <input type="checkbox"/> 平成 25 年度より自己評価実施に向けて、組織体制を整備した。 <input type="checkbox"/> 評価結果を受け、改善指導があった場合には誠実に対応していく。			
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	3	<input type="checkbox"/> 自己評価はファイリング保管されている <input type="checkbox"/> 平成 25 年度より自己点検評価を HP 上に公開している			
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施に際して組織体制を整備し、実施しているか <input type="checkbox"/> 設置課程・学科に関連業界等から委員を適切に選任しているか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか	3	<input type="checkbox"/> 平成 25 年度より学校関係者評価委員会を設置し、実施に向けて組織体制を整備した。 <input type="checkbox"/> 委員会で出た改善については取り組み始めている <input type="checkbox"/> 学内運営会議にて具体的な取り組みに対する意思決定をしている	時代や環境、社会のニーズにあわせた業界委員の選定が難しい。	常に業界との接点を持ち、最新の業界事情をいち早く取り入れ、学校運営に反映させる。	
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	3	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめている <input type="checkbox"/> 平成 25 年度より自己点検評価を HP 上に公開している			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>開校した平成 21 年度より私立専門学校評価機構に加盟し、自己点検・自己評価に関する情報収集と準備を進めてきた。昼間部学科の卒業生を輩出した平成 23 年度より自己点検を開始した。</p> <p>平成 25 年度より自己点検評価と学校関係者評価、そして評価結果の公表の整備をすることができた。</p> <p>今後は評価を基にした改善についての活動を活発にしていく。</p>	<p>平成 25 年度より学校関係者評価委員会を設置し、学校関係者評価の整備を開始した。また、同時に HP により評価結果の公表に向けた取り組みも開始した。</p>

最終更新日付	2025 年 5 月 1 日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	----------------	-------	--------

9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	<input type="checkbox"/> 学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか <input type="checkbox"/> 学生、保護者、関連業界等広く社会に公開するための方法で公開しているか	3	<input type="checkbox"/> 情報公開に関しては、本校ホームページや学校案内にて行なっている。特に日々の教育内容に関してはブログを活用し日々発信している。 <input type="checkbox"/> 学校案内(主に受験生対象)・ホームページで教育内容を公表している。	Instagramにて教育風景の発信 Tiktok、youtubeにて学校行事等の発信	SNSとHPの連携を強化する為の具体的なしくみ作りを行っている。	本校 HP http://www.seika.belle.ac.jp/

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
教育情報の公開に関しては、学校案内及びホームページにて適正に公開している。メディア MIX の構築を推進し様々なソースから本校の HP に流入できる経路を構築している。	公開は下記の HP にて行っている。 http://www.seika.belle.ac.jp/about/jyouhou

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校のミッションに「地域の信頼」「業界の信頼」を掲げており、積極的に社会貢献活動を行なっている。</p> <p>食の業界で即戦力として活躍できる人材養成の一環として、食による生きがいの創出、食の安全性、衛生管理、サービスマインドに関する啓蒙を学生に対して行ってきた。</p> <p>また、学内店舗実習やワンハートサービス、そしてヒルトン東京ベイ様と連携して行う「子ども食堂」という授業を通して、地域のお客様に質の高い料理・菓子・ドリンクなどを提供し信頼を得ることに成功している。</p> <p>加えて、学内においては学生スタッフ活動を推進し、人のために自分の時間と労力を割き、奉仕をすることの喜びと意義を体感させている。</p> <p>地域貢献としては、江戸川区と密接な連携体制が在り、災害時の避難場所としての締結をしている。</p>	<p>「生涯教育」の視点から、まずはキャリアアップやジョブチェンジに活かしてもらえるよう、卒業生に対しての同窓会活動をより充実させていく。</p> <p>その為、事業計画の重要課題にも据えている。</p> <p>またボランティアに関しても、ウェディングケーキの製作、高校の文化祭での出店等に必要な材料、物品等の貸し出し、合わせて実習室の貸し出しを行っている。</p>	

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<input type="checkbox"/> 産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか <input type="checkbox"/> 国の機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか <input type="checkbox"/> 学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか <input type="checkbox"/> 高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか <input type="checkbox"/> 環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための教育、研修に取り組んでいるか	3	<input type="checkbox"/> 実学教育を掲げ、積極的に教育プログラムに組み込んでいる <input type="checkbox"/> 産学連携教育として多くの企業と連携し教育を展開している <input type="checkbox"/> 卒業生にはもちろん関連団体の検定会場・コンテスト会場などに可能な限り開放している。 <input type="checkbox"/> 食育プログラム・職業体験プログラムなど依頼があれば協力をしている。 <input type="checkbox"/> 総合学習や体験授業を通じて高校生に仕事体験を提供している。 <input type="checkbox"/> 生涯学習講座ではないが地域の方々に学内店舗で安価に学生の教育活動の成果を提供している。 <input type="checkbox"/> 学園・学校のミッションを通じて社会貢献の大切さを職員に理解してもらうための研修を行なっている。	全学的にレギュラーの連携教育をどのように組み込んでいくか。つまり新しい教育プログラムの構築が課題である。	企業との包括的な教育提携を結んでいく事で、連携授業の通常化が可能となる。	本学園 HP http://www.jikeicom.jp/kokusai/teikei/france.html 教育指導要領 ホームページ（韓国語版） http://east.jikei.asia/kr/school/foods_belle.html

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と教職員の人事交流・共同研究等を行っているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と留学生の受入れ、派遣、研修の実施など交流を行っているか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 海外教育機関との人事交流、研修の実施など、国際水準の教育力の確保に向け取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか	3	<input type="checkbox"/> 学園のミッションに「国際教育」を掲げ、学校として取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> パティシエ科で仏のチョコレートメーカー「ヴァローナ社」のパティシエ特別講師による講習会を実施。 <input type="checkbox"/> 学園が設置する海外事務所が5カ国にあり、留学生の受入れ窓口になっている <input type="checkbox"/> 留学生受入れの方針については「外国人留学生入学規則」に明記しており、教育目標等の設定に関しても留学生に対する配慮を行なっている。 <input type="checkbox"/> 9～10月に学生向け特別授業、2月に海外研修を計画中。 <input type="checkbox"/> 教育内容を学園HPで中国語、韓国語、英語で見られるようにしている。留学生用のパンフレットも別に作成している。	日本での就労を目指す留学生への対応。	特定活動（農林水産省）、特定技能等の就労ビザ取得を専属のスタッフで対応していく。	サブパンフレット 留学生の方へリーフ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学園はミッションの1つとして「国際教育」を掲げ、国際教育に力を入れている。本校ではパティシエ科がフランスのチョコレートメーカー「ヴァローナ社」、調理師科がイタリアの調理教育機関「イチフ」と提携し、学生の研修を実施している。</p> <p>また、留学生の募集に関しても海外に事務所を構えるとともに学内にも専門部署を設け、入学相談から、入国手続きまで留学生が安心して相談できる体制整備に取り組んでいる。</p>	<p>留学生在籍者数が全学生数の約10%であり、国際色の豊かな学校となってきている。その分、言語だけでなく、習慣の違いなどによる対の変化もあり、複雑になってきている事も増えてきている。</p>

最終更新日付

2025年5月1日

記載責任者

阿部 憲一朗

10-37 ボランティア活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	<input type="checkbox"/> ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか <input type="checkbox"/> 活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を把握しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を評価しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動結果を学内で共有しているか	3	<input type="checkbox"/> 団体や企業からの依頼があれば、学生に積極的に紹介している。また施設・機器の使用も認めている。 <input type="checkbox"/> 窓口は主に担任が行なっている。 <input type="checkbox"/> 学校を通じて行なったものに関しては、活動実績は把握している。 <input type="checkbox"/> 卒業の際に表彰制度がある。 <input type="checkbox"/> 会議、朝終礼などで学内の共有を行なっている。	学校を通じての依頼でない学生ボランティアについては学校が把握できない状況にある。	学外活動のルールを定めて事前に活動が報告されるようにする。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
ウェディングケーキの製作、高校の文化祭での出店等に必要な材料、物品等の貸し出し、合わせて実習室の貸し出しを行っている。	

最終更新日付	2025年5月1日	記載責任者	阿部 憲一朗
--------	-----------	-------	--------

4 2024 年度重点目標達成についての自己評価

2024 年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>1. 産官学共同教育の推進</p> <p>①「業界コラボレーション」のフロー教育を完成させる。</p> <p>②ホテル・ウェディングへ就職できる学校としてのブランド力の向上をはかる。</p> <p>2. 攻守に強い組織になる</p> <p>① 定員充足率：100%</p> <p>② 収支差益率：25%</p> <p>3. 食の分野での新しい価値の創造</p> <p>①顧客マーケットの拡大</p> <p>②新しい教育プログラムの創出</p>	<p>1. 産官学共同教育の推進：△ 舞浜エリアを中心とした、業界コラボレーション授業を実施することができたが、まだ圧倒的とは言えず、他校では実現できない現場力教育の構築にはさらなる産学連携の強化が必要である。</p> <p>2. 攻守に強い組織になる：△</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定員の充足率：100% 【2024】77.1% (296名/384名) 【2023】84.0% (289名/344名) 【2022】74.7% (287名/384名) 【2021】80%(308名/384名) 【2020】83%(332名/404名) <p>広報目標 172 名に対し、137 名の実績 (79.7%)。定員充足 100%に向けて大きく課題を残す事となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収支差益：13%⇒目標に対して、13%の着地：○ <p>引き続き次年度目標の達成に向けては、広報目標（入学者）及び進級率目標（2年生への進級者数）の達成が必要である。</p> <p>3. 食の分野での新しい価値の創造：△</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣領域へのマーケットの拡大（ビジネス分野：開業、副業）に向けてカフェ開業プランニングなどの授業を実施しているが更なる強化が必要である。 ・ICTを活用した新しい教育プログラムにおいては、Teamsを使用するなど工夫が必要となる。 	<p>1. 産官学共同教育の推進 入学前から卒業後までを1つのフローとして企業と共に人材育成をしていくビジョンが必要である。単発にではなく企業としっかりとした教育連携の上で実施をしていく。</p> <p>2. 攻守に強い組織になる 新規学科の開発や既存学科の強みを再度見直し、受験生と業界の価値にあわせた学科商品を構成する。また、恒常的に支出を抑える為に教育や広報、その他においての構造改革をいかに行うかも重要となる。</p> <p>3. 食の分野での新しい価値の創造 ビジネス分野への拡大に向けて、サービス、マーケティング、英語の授業などカリキュラムを構築していく。</p>